

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年3月25日

【事業年度】 第126期(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

【会社名】 株式会社 白洋舎

【英訳名】 Hakuyosha Company, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 松本 彰

【本店の所在の場所】 東京都大田区下丸子二丁目11番8号

【電話番号】 03(5732)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区下丸子二丁目11番8号

【電話番号】 03(5732)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【縦覧に供する場所】 株式会社 白洋舎 大阪支店
(大阪府吹田市岸部中二丁目17番1号)

株式会社 白洋舎 名古屋支店
(名古屋市北区水草町一丁目27番地)

株式会社 白洋舎 湘南支店
(神奈川県鎌倉市大船1737番地)

株式会社 白洋舎 千葉支店
(千葉市美浜区新港221番地9)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
決算年月		2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月
売上高	(百万円)	46,561	47,768	48,977	50,738	50,816
経常利益	(百万円)	1,148	1,425	1,338	1,475	1,209
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	506	735	1,005	1,050	299
包括利益	(百万円)	772	1,423	954	1,821	170
純資産額	(百万円)	6,809	8,034	8,807	10,411	10,007
総資産額	(百万円)	34,344	35,773	37,664	37,749	38,152
1株当たり純資産額	(円)	1,643.37	1,954.34	2,146.10	2,562.38	2,458.61
1株当たり当期純利益金額	(円)	132.34	191.99	262.60	275.36	78.58
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)					
自己資本比率	(%)	18.3	20.9	21.8	25.8	24.5
自己資本利益率	(%)	8.0	10.7	12.8	11.7	3.1
株価収益率	(倍)	18.4	14.0	10.2	16.0	35.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,438	2,576	2,139	2,113	2,291
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,141	1,305	596	1,224	1,340
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	901	622	1,758	1,503	844
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	1,143	1,814	1,570	975	1,081
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	2,011 (3,048)	2,047 (2,987)	2,125 (2,990)	2,186 (2,910)	2,229 (2,801)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 「株式給付信託 (BBT)」に残存する自社の株式は、第123期、第124期、第125期及び第126期の1株当たり純資産額の算定上、期末株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

3 「株式給付信託 (BBT)」に残存する自社の株式は、第123期、第124期、第125期及び第126期の1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

5 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

6 2016年7月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しております。第122期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
決算年月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月
売上高 (百万円)	34,223	35,212	35,755	36,674	36,943
経常利益 (百万円)	908	931	935	776	992
当期純利益 (百万円)	445	549	658	600	247
資本金 (百万円)	2,410	2,410	2,410	2,410	2,410
発行済株式総数 (株)	39,000,000	39,000,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000
純資産額 (百万円)	6,497	7,146	7,511	8,026	7,699
総資産額 (百万円)	27,026	27,846	30,166	29,861	30,017
1株当たり純資産額 (円)	1,671.68	1,838.97	1,933.16	2,076.55	1,991.09
1株当たり配当額 (円)	5.00	6.00	37.50	60.00	50.00
(内1株当たり 中間配当額) (円)	(2.50)	(2.50)	(2.50)	(25.00)	(25.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	114.70	141.31	169.47	155.20	64.12
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	24.0	25.7	24.9	26.9	25.7
自己資本利益率 (%)	7.1	8.1	9.0	7.7	3.2
株価収益率 (倍)	21.3	19.0	15.8	28.4	43.9
配当性向 (%)	43.6	42.5	35.4	38.7	78.0
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	1,496 (2,181)	1,530 (2,177)	1,582 (2,079)	1,623 (1,971)	1,660 (1,874)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、第123期、第124期、第125期及び第126期の1株当たり純資産額の算定上、期末株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

3 「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、第123期、第124期、第125期及び第126期の1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

5 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

6 2016年7月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しております。第122期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

7 第123期(2015年12月期)の1株当たり配当額6円には、創業110周年記念配当1円を含んでおります。

8 第124期(2016年12月期)の1株当たり配当額37.50円は、中間配当額2.50円と期末配当額35円(特別配当10円含む)の合計となります。なお、2016年7月1日付で普通株式10株を1株の割合で併合しておりますので、中間配当額2.50円は株式併合前の配当額、期末配当額35円は株式併合後の配当額となります。

9 第125期(2017年12月期)の1株当たり配当額60円には、特別配当10円を含んでおります。

2 【沿革】

当社は、創始者五十嵐健治が1906年3月14日東京日本橋において「白洋舎」と称し個人経営で洋式洗濯業を創業したことに始まり、その後1920年株式会社に改組し現在に至っておりますが、その後の沿革は次のとおりであります。

1920年5月	白洋舎クリーニング株式会社設立
1920年5月	名古屋支店設置
1920年11月	渋谷工場設置(旧渋谷支店)
1921年4月	大阪支店設置
1927年12月	株式会社白洋舎と商号変更
1931年6月	横浜支店設置
1932年5月	札幌支店設置(現・札幌白洋舎株式会社)
1932年5月	多摩川工場設置(現・東京支店)
1933年4月	静岡支店(現・静岡白洋舎株式会社)、仙台支店設置
1938年4月	福岡支店設置
1945年10月	京都支店設置
1946年11月	湘南支店設置
1949年5月	東京証券取引所上場
1956年4月	東日本ホールセール株式会社(現・連結子会社)を設立
1959年2月	信和実業株式会社(現・連結子会社)を設立
1960年3月	大阪・淀屋橋白洋舎ビル竣工
1961年2月	東京東支店設置
1961年10月	大阪証券取引所上場(2005年11月25日上場廃止)
1962年2月	共同リネンサプライ株式会社(現・連結子会社)を設立
1962年11月	日本リネンサプライ株式会社(現・連結子会社)を設立
1963年8月	神戸支店設置(現・大阪支店)
1963年9月	スターリース株式会社を設立
1963年10月	株式会社ケイシーケイエンタープライズを設立
1965年6月	札幌・白洋舎ビル竣工
1967年8月	東京北支店設置
1967年8月	武蔵野支店設置
1969年8月	レンテックス東部事業所開設
1969年9月	レンテックス西部事業所開設
1969年12月	株式会社双立(現・連結子会社)を設立
1970年2月	リネンサプライ小田原事業所(現・リネンサプライ相模事業所)開設
1970年2月	白洋舎インターナショナル株式会社(現・連結子会社)を設立
1970年4月	リネンサプライ京浜工場開設(現・ユニフォームレンタル東部事業所)
1970年8月	広島支店設置
1972年3月	大宮支店設置(現・東京北支店)
1972年8月	奈良店開設(現・京都支店)
1973年2月	株式会社ジャパンアパレル・サービスを設立
1973年10月	厚木支店設置(現・湘南支店)
1973年10月	千葉支店設置並びにリネンサプライ千葉事業所開設
1974年8月	白洋舎不動産株式会社を設立
1975年8月	マーキュリーコメント株式会社を設立
1981年7月	ダステックスホルル株式会社(現・連結子会社)を設立
1981年12月	サニトーンジャパン株式会社を設立
1982年12月	厚木市金田に相模支店(現・湘南支店)設置、旧厚木支店併合
1984年4月	リネンサプライ相模事業所開設
1986年11月	渋谷支店を東京支店へ統合
1987年1月	ハウスクエア事業所開設
1987年4月	東京西支店(現・武蔵野支店)設置
1988年4月	白洋舎本社ビル完成(旧本社)
1990年3月	東京北支店埼玉県新座市に移転
1997年1月	レンテックス埼玉事業所開設(現・ユニフォームレンタル東部事業所)
2000年1月	ユニフォームレンタル東京事業所(現・ユニフォームレンタル東部事業所)開設
2000年7月	ユニフォームレンタル西部事業所開設
2001年7月	ユニフォームレンタル福岡事業所開設
2003年1月	大宮支店を東京北支店へ統合
2003年1月	奈良支店を京都支店へ統合
2003年1月	神戸支店を大阪支店へ統合

2003年1月 相模支店を湘南支店へ統合
2004年2月 有限会社マインクリーナーズを設立
2004年8月 栄リネンサプライ株式会社(現・白洋舎栄リネンサプライ株式会社 連結子会社)を子会社へ
2004年9月 マーキュリーコメット株式会社を清算
2004年9月 株式会社阪急リネンサプライ株式取得
2004年10月 株式会社ケイシーケイエンタープライズがサニトーンジャパン株式会社を合併
2005年4月 株式会社阪急リネンサプライを共同リネンサプライ株式会社に商号変更
2005年10月 信和実業株式会社が白洋舎不動産株式会社を合併
2006年1月 東京西支店を武蔵野支店へ統合
2006年9月 株式会社双立、信和実業株式会社、スターリース株式会社が完全子会社となる
2007年1月 リネンサプライ小田原事業所をリネンサプライ相模事業所へ統合
2007年10月 共同リネンサプライ株式会社(東京都大田区)が共同リネンサプライ株式会社(大阪府大阪市淀川区)を合併
2008年1月 札幌支店を会社分割し、札幌白洋舎株式会社(現・連結子会社)を設立
2008年10月 スターリース株式会社を吸収合併
2009年6月 有限会社マインクリーナーズを清算
2009年10月 株式会社双立が株式会社ケイシーケイエンタープライズを合併
2010年9月 北洋リネンサプライ株式会社を連結子会社へ
2011年1月 静岡支店を会社分割し、静岡白洋舎株式会社(現・連結子会社)を設立
2012年1月 ユニフォームレンタル横浜事業所がユニフォームレンタル東京事業所を統合し、ユニフォームレンタル東部事業所へ改称
2012年12月 北洋リネンサプライ株式会社、株式会社ジャパンアパレル・サービスが完全子会社となる
2013年4月 株式会社双立が株式会社ジャパンアパレル・サービスを合併
2014年7月 本社を東京都大田区に移転(本社ビル完成)
2016年6月 北海道リネンサプライ株式会社を連結子会社へ
2017年10月 北海道リネンサプライ株式会社が北洋リネンサプライ株式会社を合併

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社11社及び関連会社3社で構成されております。
当社グループ事業に係わる位置づけおよびセグメントの関連は、次のとおりであります。
なお、セグメントと同一の区分であります。

クリーニング

個人および法人のドライクリーニング品、ランドリー品等の洗濯、仕上、加工等を取扱う事業であります。

(主な関係会社)

札幌白洋舎(株)、静岡白洋舎(株)、東日本ホールセール(株)、Hakuyosha International, Inc.

レンタル

ホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシャツ、布団カバー等のクリーニング付レンタルを取扱う事業であります。

(主な関係会社)

共同リネンサプライ(株)、日本リネンサプライ(株)、白洋舎栄リネンサプライ(株)、北海道リネンサプライ(株)、
Dust-TEX Honolulu, Inc.

不動産

不動産の賃貸および管理・仲介等を取扱う事業であります。

(主な関係会社)

信和実業(株)

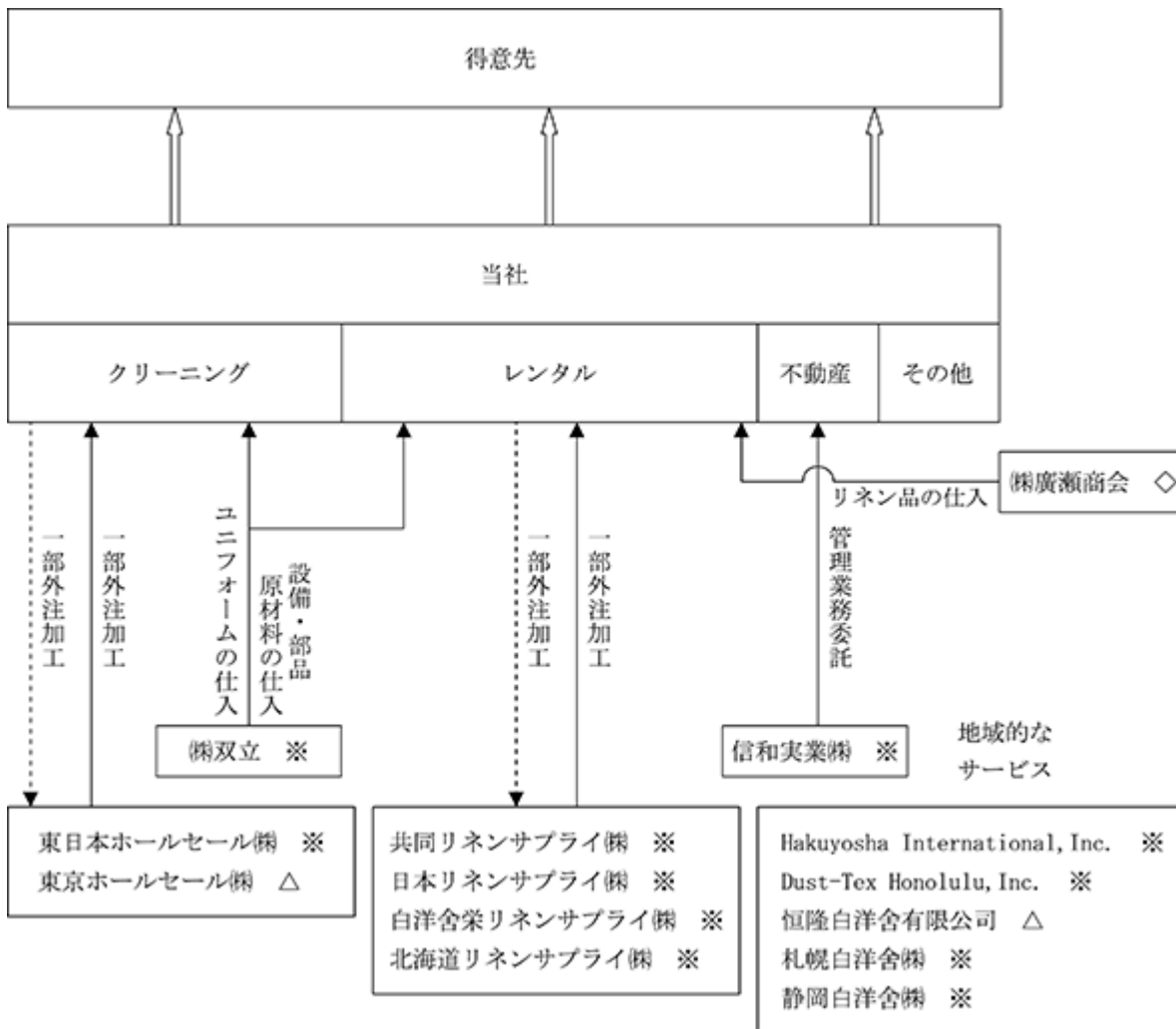
その他

ハウスクリーニングやモップ、マット等のレンタルを行うクリーンサービス事業や、洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業を含んでおります。

(主な関係会社)

(株)双立

事業の系統図は次の通りであります。



- 連結子会社..... Hakuyosha International, Inc. ・日本リネンサプライ(株) ・共同リネンサプライ(株) ・
(11社) 印 東日本ホールセール(株) ・(株)双立 ・信和実業(株) ・Dust-Text Honolulu, Inc. ・
白洋舎栄リネンサプライ(株) ・札幌白洋舎(株) ・静岡白洋舎(株) ・
北海道リネンサプライ(株)
- 持分法適用関連会社... 恒隆白洋舎有限公司 ・東京ホールセール(株)
(2社) 印
- 持分法を適用していない関連会社... 日本スエードライフ(株)
(1社)
- 重要な関連当事者..... (株)廣瀬商会
(1社) 印

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有 割合(%)	
(連結子会社) 札幌白洋舎(株)	北海道 札幌市西区	95	クリーニング	100.00 () []		役員の兼務 4名
静岡白洋舎(株)	静岡県 静岡市駿河区	95	クリーニング	100.00 () []		役員の兼務 2名
東日本ホールセール(株)	群馬県前橋市	90	クリーニング	86.43 (57.47) [12.67]		毛皮・皮革等のクリーニングを外注している。 役員の兼務 3名
共同リネンサプライ(株) (注)2、5	東京都大田区	446	レンタル	81.91 () [6.43]		リネンサプライ業務を外注している。 役員の兼務 3名
日本リネンサプライ(株)	神奈川県 横浜市港北区	99	レンタル	84.75 (3.03) []		リネンサプライ業務を外注している。 役員の兼務 2名
白洋舎栄リネンサプライ(株)	愛知県 北名古屋市	30	レンタル	100.00 () []		リネンサプライ業務を外注している。 役員の兼務 2名
北海道リネンサプライ(株)	北海道 札幌市白石区	75	レンタル	88.89 () []		役員の兼務 3名
信和実業(株)	東京都大田区	14	不動産	100.00 () []		損害保険、不動産賃貸及び管理を委託している。 役員の兼務 3名
(株)双立	東京都大田区	20	その他	100.00 () []		クリーニング用資材、機械の仕入及びユニフォームレンタル用リネンの仕入を委託している。 役員の兼務 4名
Hakuyosha International, Inc.	USA.Hawaii	US \$ 238,730	クリーニング	76.02 (22.01) [13.55]		貸付を行っている。 役員の兼務 3名
Dust-TEX Honolulu, Inc.	"	US \$ 597,145	レンタル	97.01 (64.81) []		貸付を行っている。 役員の兼務 3名
(持分法適用関連会社) 東京ホールセール(株)	東京都府中市	160	クリーニング	22.08 (7.45) [8.25]	4.65	毛皮・皮革等のクリーニングを外注している。 役員の兼務 2名
恒隆白洋舎有限公司	Hong Kong	HK \$ 800,000	クリーニング	50.00 () []		役員の兼務 2名

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
2 特定子会社に該当しております。
3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
4 議決権の所有割合の(内書)は間接所有であり、〔外書〕は緊密な者等の所有割合であります。
5 共同リネンサプライ(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

売上高	6,490百万円
経常利益	152百万円
当期純利益	104百万円
純資産額	2,307百万円
総資産額	4,908百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2018年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーニング	1,475 (1,749)
レンタル	581(961)
不動産	2(11)
その他	99(69)
全社	72(11)
合計	2,229 (2,801)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 従業員数欄の()内の数字は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

2018年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,660(1,874)	39.3	12.6	4,233,897

セグメントの名称	従業員数(名)
クリーニング	1,254(1,549)
レンタル	260(263)
不動産	()
その他	74(51)
全社	72(11)
合計	1,660(1,874)

- (注) 1 従業員は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 従業員数欄の()内の数字は、外書で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は企業内組合であって、「白洋舎労働組合」と称しており、連結子会社及び関連会社等には労働組合はありません。特に記す事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「人々の清潔で、快適な生活空間づくりのために、たゆまぬ技術革新と感動を与えるサービスを提供し、社会に貢献する」ことを経営理念とし、1906年の創業から百十余年間、業界のリーディングカンパニーとして、たえず新しいサービスや技術に挑戦し、最先端を走り続けてまいりました。

2018年度からは、「CLEAN LIVING 2020」をテーマとする新たな中期経営計画（3ヵ年）を開始しており、当社の技術・品質を支えるプロフェッショナルな人材の育成、女性活躍推進といった人材開発に引き続き取り組んでまいります。さらに、管理会計の精緻化を行い、採算を重視した店舗政策の推進や不採算領域からの撤退等を通じて事業収益力の改善を図るほか、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い増加が見込まれるリネンサプライ需要への対応として、工場の生産能力を増強する等、経営計画に基づいた成長戦略を進めてまいります。これらに加え、コンプライアンスの更なる徹底とコーポレートガバナンスの強化を通じて中長期的な企業価値の向上を図り、ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えてまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、新中期経営計画（2018年度より3ヵ年）において、自己資本比率の30%以上確保および自己資本利益率（ROE）の10%以上堅持を目標としております。

(3) 会社の経営環境、中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

個人向けクリーニング事業を取り巻く環境は、クールビズに象徴される服装のカジュアル化など構造的な要因等もあり、需要が中長期的に低下傾向にあります。他方、レンタル事業においては、観光立国化推進に伴うホテル客室数の増加や食品関連企業のユニフォームレンタル需要の拡大が引き続き期待できるものの、両事業ともに、人手不足を背景とした人件費や物流コストの上昇等もあり、収益性の改善が課題となっております。

こうしたなか、当社グループは、「CLEAN LIVING 2020」をテーマとした中期経営計画を昨年よりスタートさせ、当社の経営理念に則り「人々の清潔で快適な生活空間づくり」への貢献を推進してまいります。昨年5月には、「白洋舎品質保証新宣言」を発表し、お客さまの期待に応え続けるべく、より一層、品質・サービスの向上に努める旨の宣言をいたしました。今後とも、お客さま満足度向上に資する「基盤」を整備しつつ、事業ポートフォリオの最適化を実現し、中長期的に企業価値を高めてまいります。

個人向けクリーニング事業においては、引き続き、お客さまから直接ご意見を頂戴する懇談会開催など「お客さまの声を聴く活動」を推進するとともに、異業種他企業との提携や消費行動の変化に対応したお客さま接点の整備・強化にも努め、品質・サービスの差別化を図ってまいります。また、システム基盤整備による業務効率化や、採算を重視したサービス店舗網の見直しなどサービスネットワークの再構築等を通じて、収益性の改善にも取り組んでまいります。

レンタル事業のうち、ユニフォームレンタル部門においては、HACCP（食品衛生管理の国際標準）の義務化に伴う需要拡大が見込まれることから、食品関連企業のニーズにお応えするため、更なる生産体制の充実を図ってまいります。また、リネンサプライ部門においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、高級ホテルの客室数増加や高稼働率継続が予想されることから、グループ総体での生産性向上や生産設備の増強を図り、増加する需要に対し安定供給の使命を果たすとともに、製造原価の低減を図っていく考えであります。

また、当社の基本精神である「奉仕の徹底」に則った強い現場をつくるため、工場技術や接客などのプロフェッショナルな人材を育成することに加え、接客やサービスメニューの開発等には、女性の視点や感性が不可欠であることから、女性の活躍を推進してまいります。

当社グループは、経営理念を事業展開の礎としつつ、中期経営計画を着実に遂行していくとともに、コンプライアンスの徹底やコーポレートガバナンスの強化を図り、株主さま、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのご期待に沿うよう、企業価値の向上に取り組んでまいります。

何卒、株主の皆さまの相変わらぬご支援とご理解を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

クリーニング需要の大幅後退のリスク

クリーニング需要の変動は短期的には起こりにくく比較的安定していると言えますが、人口高齢化に伴う生産年齢人口の減少、服装のカジュアル化、家庭用洗濯機並びに洗剤の高機能化等の要因により、クリーニング需要は中長期的に減少傾向となっています。当社グループではこれらの要因が今後もクリーニング需要の減少要因になることを、経営上の前提として認識した上で経営計画を策定していますが、中長期的に想定以上の需要後退が進んだ場合、当社グループの経営成績に大きな悪影響が及ぶ可能性があります。

天候のリスク

クリーニング事業は、天候変動の影響を受けやすく、暖冬や冷夏、あるいは季節の変わり目の時期の遅れなどによりクリーニング需要が変動するケースがあります。

また、レンタル事業のうちホテル依存度の高いリネンサプライ部門でも天候不順によるホテル宿泊客の変動などにより需要が変動する場合があります。当社グループではこれらの事前の予測等も踏まえつつ、生産計画、雇用計画を策定していますが、予想に反する大幅な天候変動があった場合、当社グループの経営成績に影響が及ぶ可能性があります。

特定取引先への集中リスク

レンタル事業においては、大手のホテル・レストラン・コンビニエンスストア等を中心とする大口法人得意の売上占有率が高く、外国人観光客減少等に伴うホテル稼働率の低下や得意先の業績不振、取引内容の変更、契約終了等が当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

業務委託に関するリスク

当社グループは、業務の一部をグループ外部の工場等へ業務委託しています。業務委託に関しては問題発生を未然に防止するよう綿密な連携をとりながら、関連法規制の遵守、品質管理等の徹底を図っておりますが、不測の事態により委託先において業務に支障が生じた場合には、当社グループの経営成績に悪影響が及ぶ可能性があります。

法的規制等によるリスク

クリーニング施設を廃止する場合等に、土壤汚染対策法で規定された対応が必要になります。当社グループでは土壤汚染については万全の防止策をとっていますが、土壤改良等が必要になった場合、経営成績への一定の悪影響が生じる可能性があります。

また、環境関連その他で新たな法令、規制等が導入された場合、業務への支障、経営成績への悪影響が及ぶ可能性があります。

石油系の洗浄・乾燥設備に起因するリスク

ドライクリーニング工場には石油系の洗浄・乾燥設備があり、防火防爆の安全対策を施しています。しかし、万一爆発火災が発生すれば、人身事故、近隣への延焼、クリーニング品の焼失、工場設備の焼損など多大な損害につながる可能性があります。

原油価格・原材料の高騰によるリスク

燃料、資材の高騰は当社グループの経営成績に直接的な悪影響を及ぼします。とりわけ原油価格の高騰は、溶剤価格、燃料費、仕入資材の値上り等、幅広く影響が及びます。

情報システム障害によるリスク

経理・営業・工場の各部門に導入している情報管理システムについて、維持管理・セキュリティー管理には万全を期しておりますが、不測の天災・人災等によって設備やソフトウェアが損壊し、情報システムの停止や内部データの消失が発生した場合、被害の程度によっては当社グループの財政状態や業績に重要な影響を与える可能性があります。

情報漏洩によるリスク

当社の所有する個人情報、個人情報保護法に基づいて社内で定めた個人情報管理規程および情報システム管理規程により、情報の取り扱いを制限しておりますが、何らかの形でこれらが漏洩すれば関係者はもとより周辺に及ぼす影響は多大なものとなります。

減損会計適用の影響

当社グループは、事業用の不動産をはじめとする固定資産を所有しております。こうした資産は、時価の下落や収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなると減損処理が必要となる場合があります。当社グループの財政状態および業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

得意先の経営破綻

当社グループは、得意先に対する売掛金等の与信管理について事前に情報収集を行うなど十分に留意しておりますが、予期せぬ得意先の経営破綻が発生した場合には、当社グループの財政状態および業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

繰延税金資産等

当社グループでは、将来の課税所得等に関する予測に基づき回収可能性を慎重に検討した上で繰延税金資産等を計上しております。しかし、今後の業績動向等により、一部ないし全部について回収可能性が低いと判断された場合、繰延税金資産等の計上額が修正され、当社グループの財政状態および業績に影響を与える可能性があります。

地震等の自然災害によるリスクについて

地震等の自然災害が発生した場合、当社グループ拠点、設備等の損壊、電力・ガス等の供給困難により生産活動やサービス提供に支障を来し、また、設備等の復旧に費用が発生し、グループの事業、業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(経営成績等の状況の概要)

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や個人所得の改善が進み、景気は緩やかな回復基調で推移した一方、日本各地で発生した台風や地震等の自然災害や、米中の貿易摩擦等の海外経済の不確実性等、景気下振れのリスクも見られる状況が続きました。

このような状況下、当社グループでは、「CLEAN LIVING 2020」をテーマとする新中期経営計画（2018年から3カ年）をスタートさせ、「人々の清潔で快適な生活空間づくり」に貢献するための成長戦略の遂行や構造改革等に努めております。

当連結会計年度における当社グループの売上高は508億1千6百万円(前年比0.2%増)となりましたが、人件費や燃料費の上昇に加え、台風や地震等による影響もあり、営業利益は10億3千4百万円(前年比22.6%減)、経常利益は12億9百万円(前年比18.0%減)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産の減損損失等を計上したことから、2億9千9百万円(前年比71.5%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<クリーニング>

個人向けのクリーニング事業については、中長期的に需要が縮小する傾向にありますが、お客さまから直接ご意見を頂戴する懇談会の開催等、お客さまの声を聴く活動を推進すること等により品質やサービスの差別化を図るとともに、システム基盤の整備による業務の効率化や、採算を重視したサービス店舗網の見直し等を通じ、収益性の改善にも取り組んでおります。

2018年6月より、人件費等の上昇を背景に、主要なクリーニング品目について、11年ぶりに料金改定を実施させて頂くとともに、高級ブランド衣料向けの宅配クリーニングサービス「HAKUTAKU」を新たに開始したほか、衣類を透過する紫外線を減少させる「UVカット加工」をオプションサービスとして導入する等、新しい営業チャネルの開発や、新サービスの開始等により、クリーニング需要の喚起に努めてまいりました。

クリーニング事業の売上高は、猛暑の影響等により、来店客数が減少したこと等から、238億2千7百万円(前年比0.5%減)に止まりましたが、セグメント利益(営業利益)は11億1百万円(前年比7.0%増)となりました。

<レンタル>

レンタル事業は、主にホテル・レストラン等のリネン品を取り扱うリネンサプライ部門と、コンビニエンスストアや外食産業、食品工場等のユニフォームを取り扱うユニフォームレンタル部門との、2つの部門からなる法人向け事業であります。この内、特にリネンサプライ部門については、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたホテル数の増加等を背景に、市場の拡大が見込まれることから、工場設備の増強等による生産体制の強化を計画的に推進しております。

当期においては、都心における高級ホテルの稼働が堅調に推移し、ナショナルチェーンや食品関連企業からの需要が増加する一方で、台風による関西国際空港閉鎖や、大阪府北部地震及び北海道胆振東部地震の影響により、関西地区及び北海道地区の取引先ホテルの稼働率が低下いたしました。

これらの結果、レンタル事業の売上高は234億7千9百万円(前年比1.4%増)となりましたが、人件費や燃料費の上昇、設備投資に伴う減価償却費の増加に加え、関西地区及び北海道地区を拠点とする連結子会社の収益悪化等により、セグメント利益(営業利益)は12億6千万円(前年比19.8%減)となりました。

<不動産>

不動産事業では、不動産の賃貸及び管理・仲介を行っております。

前期において、連結子会社が保有する土地に関する借地権の更新料収入を計上したこと等から、不動産事業の売上高は5億3千2百万円(前年比16.8%減)、セグメント利益(営業利益)は3億7千3百万円(前年比15.7%減)となりました。

<その他>

その他の事業として、モップ・マット等を供給するクリーンサービス事業や、連結子会社において、クリーニング機械・資材、レンタル用ユニフォームの販売を行っております。

その他事業の売上高は29億7千7百万円(前年比0.3%減)、セグメント利益(営業利益)は2億2千7百万円(前年比7.9%減)となりました。

当連結会計年度末における総資産額は381億5千2百万円(前年比1.1%増)、純資産額は100億7百万円(前年比3.9%減)、自己資本比率は24.5%(前年25.8%)、自己資本利益率は3.1%(前年11.7%)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フロー収入22億9千1百万円、投資活動によるキャッシュ・フロー支出13億4千万円、財務活動によるキャッシュ・フロー支出8億4千4百万円などにより1億5百万円増加いたしました。その結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前年比10.9%増の10億8千1百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益8億8千3百万円、減価償却費14億8千4百万円などにより、前年比8.5%増の22億9千1百万円の収入となりました。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出14億6千5百万円などにより、前年比9.5%減の13億4千万円の支出となりました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入れによる収入119億9千1百万円、長短借入金の返済による支出117億9千2百万円、リース債務の返済による支出7億6千万円などにより、前年比43.9%増の8億4千4百万円の支出となりました。

(3) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります

セグメントの名称	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日 (百万円)	前年同期比(%)
クリーニング	23,827	0.5
レンタル	23,479	1.4
不動産	532	16.8
その他	2,977	0.3
合計	50,816	0.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当グループは見込み生産を行っていないため、該当事項はありません。

販売実績

販売実績は、生産実績と同一であるため記載しておりません。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第一部企業情報 第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご参照ください。

(2) 当連結会計年度末の財政状態の状況に関する分析・検討内容

(流動資産)

当連結会計年度末の流動資産合計は、136億6千9百万円となり、前連結会計年度末の135億2千5百万円と比較して1億4千3百万円の増加となりました。主に、現金及び預金の増加1億6百万円によるものです。

(固定資産)

当連結会計年度末の固定資産合計は、244億8千2百万円となり、前連結会計年度末の242億2千4百万円と比較して2億5千8百万円の増加となりました。主に、投資有価証券の減少5億1千8百万円、退職給付に係る資産の増加6億8千8百万円によるものです。

(流動負債)

当連結会計年度末の流動負債合計は、119億8千万円となり、前連結会計年度末の123億7千2百万円と比較して3億9千1百万円の減少となりました。主に、短期借入金の減少7億3千4百万円、一年内返済予定の長期借入金の増加4億3千万円によるものです。

(固定負債)

当連結会計年度末の固定負債合計は、161億6千3百万円となり、前連結会計年度末の149億6千5百万円と比較して11億9千7百万円の増加となりました。主に、退職給付に係る負債の増加10億6千5百万円によるものです。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、100億7百万円となり、前連結会計年度末の104億1千1百万円と比較して、4億3百万円の減少となりました。主に、その他有価証券評価差額金の減少3億4千3百万円によるものです。

(3) 当連結会計年度の経営成績の状況に関する分析・検討内容

当連結会計年度の概況につきましては、「第一部企業情報 第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載しております。具体的な経営成績の状況の分析につきましては以下のとおりであります。

売上高

当連結会計年度の売上高は508億1千6百万円となり、前連結会計年度の売上高507億3千8百万円と比較して7千8百万円の増加となりました。セグメント別の業績及び主な理由につきましては、「第一部企業情報 第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

売上原価、販売費及び一般管理費

当連結会計年度の売上原価は437億2百万円となり、前連結会計年度の売上原価432億7千3百万円と比較して4億2千8百万円の増加となりました。販売費及び一般管理費は60億7千9百万円となり、前連結会計年度の販売費及び一般管理費61億2千7百万円と比較して4千7百万円の減少となりました。

営業利益

上記の売上高及び売上原価、販売費及び一般管理費に記載しました理由により、当連結会計年度の営業利益は10億3千4百万円となり、前連結会計年度の営業利益13億3千6百万円と比較し3億2百万円の減少となりました。

営業外損益

当連結会計年度の営業外収益は4億1千6百万円となり、前連結会計年度の営業外収益3億9千5百万円と比較して2千1百万円の増加となりました。当連結会計年度の営業外費用は2億4千1百万円となり、前連結会計年度の営業外費用2億5千7百万円と比較して1千5百万円の減少となりました。

経常利益

上記の 営業外損益に記載しました理由により、当連結会計年度の経常利益は12億9百万円となり前連結会計年度の経常利益14億7千5百万円と比較して2億6千5百万円の減少となりました。

特別損益

当連結会計年度の特別利益は固定資産売却益1億4千8百万円、投資有価証券売却益1億3千4百万円により2億8千2百万円となり、前連結会計年度の特別利益0百万円と比較して2億8千1百万円の増加となりました。

当連結会計年度の特別損失は固定資産処分損4千7百万円、減損損失5億6千1百万円により6億8百万円となり、前連結会計年度の特別損失4千6百万円と比較して5億6千2百万円の増加となりました。

税金等調整前当期純利益

上記の 特別損益に記載しました理由により、当連結会計年度の税金等調整前当期純利益は8億8千3百万円となり、前連結会計年度の税金等調整前当期純利益14億2千9百万円と比較して5億4千6百万円の減少となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の合計金額が、前連結会計年度と比較して2億7千6百万円の増加となりました。その結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は2億9千9百万円となり、前連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益10億5千万円と比較して、7億5千万円の減少となりました。

(4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当社グループは、新中期経営計画(2018年度より3ヵ年)において、自己資本比率の30%以上確保および自己資本利益率(ROE)の10%以上堅持を目標としております。

当連結会計年度においては、売上高は前連結会計年度を上回ったものの、特別損失6億8百万円の計上等があったために、自己資本比率は24.5%、自己資本利益率(ROE)は3.1%となり、新中期経営計画(2018年度より3ヵ年)の目標値は未達となっております。

(5) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループは、資金計画に基づき、必要な運転資金や設備資金は、長期の銀行借入及び社債により調達しております。資金の流動性については、十分な当座借越枠を設定することにより、手元流動性を確保しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループでは、研究部門(全社(共通))において、東京都大田区下丸子に洗濯科学研究所をもっており、研究内容は主として洗濯溶剤の管理・事故品の経過追及等の業務であります。

当連結会計年度の研究開発費53百万円(セグメント上は配賦不能営業費用)となっております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において、全体で19億9千2百万円の設備投資を実施いたしました。

セグメント別では、クリーニング事業におきましては、新規店舗及びクリーニング機械設備等に5億9千8百万円、レンタル事業におきましては、工場機械設備等に11億2千1百万円、不動産事業におきましては7千3百万円、全社におきましては、ソフトウェアの取得等に1億9千8百万円の投資を実施いたしました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2018年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積 ^m ²)	リース 資産	その他	合計	
東京支店他 (東京都大田区他)	クリーニング	洗濯設備	1,789	83	1,772 (47,291.12)	750	65	4,461	1,254 (1,549)
リネンサプライ 千葉事業所他 (千葉県千葉市美浜 区他)	レンタル	"	672	847	1,131 (17,553.94)	152	203	3,007	260 (263)
神山ビル他 (東京都渋谷区他)	不動産	賃貸ビル	1,054		1,050 (10,280.29)	0	0	2,105	()
レンテックス東部 事業所他 (東京都大田区他)	その他	洗濯設備	8	1		3	2	15	74 (51)
本社他 (東京都大田区他)	全社	事務所	961	0	1,005 (2,547.01)	6	40	2,014	72 (11)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。
4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の平均雇用人員であります。

(2) 国内子会社

2018年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積 ^m ²)	リース 資産	その他	合計	
共同リネン サプライ(株)	東京都 大田区	レンタル	洗濯設備	156	456	1,716 (5,967.99)	120	20	2,469	130 (404)
東日本ホール セール(株)	群馬県 前橋市	クリーニ ング	"	168	5	49 (3,178.18)	10	2	235	29 (58)
信和実業(株)	東京都 大田区	不動産	建物	654	1	649 (3,589.97)		0	1,306	2 (11)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。
4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の平均雇用人員であります。

(3) 在外子会社

2018年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
Hakuyosha Internati onal, Inc.	USA. Hawaii	クリー ニング	洗濯設備	334	598			2	935	114 (20)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。
4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の平均雇用人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等
該当事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却等
該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2018年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年3月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,900,000	3,900,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	3,900,000	3,900,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年7月1日(注)	35,100,000	3,900,000		2,410		1,436

(注) 2016年3月25日開催の第123回定時株主総会決議により、2016年7月1日付で10株を1株に株式併合いたしました。これにより株式数は35,100,000株減少し、発行済株式総数は3,900,000株となっております。

(5) 【所有者別状況】

2018年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		26	19	107	39	3	2,441	2,635	
所有株式数(単元)		13,381	250	11,692	641	11	12,823	38,798	20,200
所有株式数の割合(%)		34.49	0.64	30.14	1.65	0.03	33.05	100.00	

(注) 自己株式2,444株は「個人その他」の欄に24単元及び「単元未満株式の状況」に44株含まれております。なお、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は、これに含まれておりません。

(6) 【大株主の状況】

2018年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社きょくとう	福岡市博多区金の隈一丁目28番53号	202	5.18
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	200	5.13
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	182	4.68
東京ホールセール株式会社	東京都府中市寿町三丁目10番20号	178	4.59
株式会社大丸松坂屋百貨店	東京都江東区木場二丁目18番11号	171	4.40
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町二丁目6番1号	163	4.19
日新火災海上保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台二丁目3番地	145	3.72
白和会	東京都大田区下丸子二丁目11番8号	132	3.40
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	122	3.14
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	107	2.76
計		1,605	41.19

(注) 第一生命保険(株)は、上記の他に第一生命保険(株)特別勘定年金口として100株所有しています。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2018年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,400		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 30,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,847,400	38,474	同上
単元未満株式	普通株式 20,200		同上
発行済株式総数	3,900,000		
総株主の議決権		38,474	

- (注) 1 単元未満株式には当社所有の自己株式44株が含まれております。
2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式30,530株(議決権の数305個)が含まれております。

【自己株式等】

2018年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株)白洋舎	東京都大田区下丸子 2丁目11番8号	2,400		2,400	0.06
(相互保有株式) 恒隆白洋舎有限公司	4/F, Flat A, Eldex Building, 21 Ma Tau Wei Road, Hong Kong		30,000	30,000	0.77
計		2,400	30,000	32,400	0.83

- (注) 1 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
実質株主が外国法人であるため	ダイワキャピタルマーケットツホンコンリミ テッドクライアントセーフキーピングアカ ウント	ATT:SETTLEMENT DEPT LEVEL 26, ONE PACIFIC PLACE 88 QUEENSWAY HONG KONG

- 2 株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は、2015年3月27日開催の第122回定時株主総会決議に基づき、2015年5月18日より、役員報酬として「株式給付信託(BBT)」を導入しております。

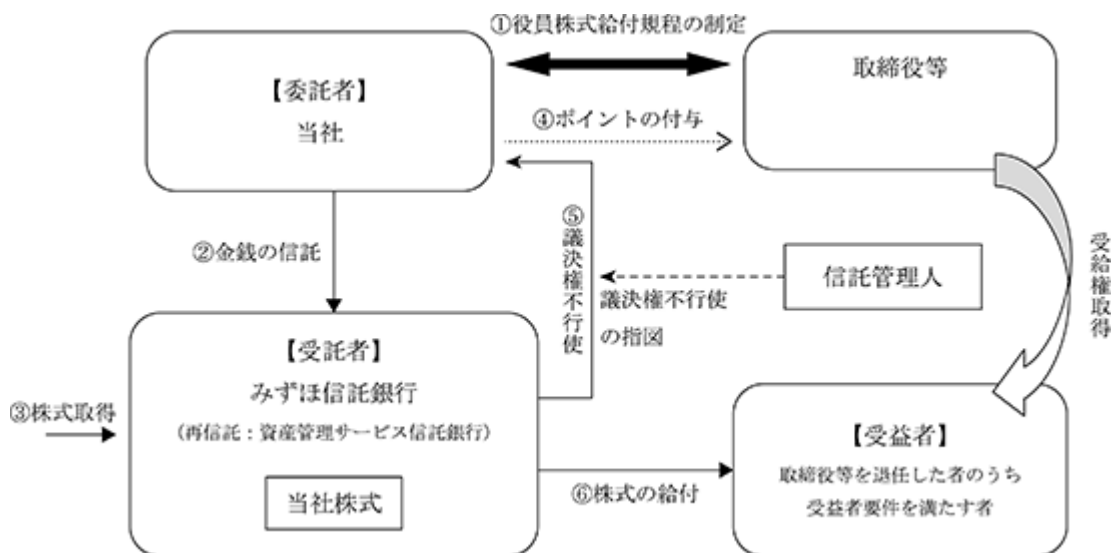
2017年1月25日開催の取締役会に基づき、当社執行役員を「株式給付信託(BBT)」の対象として追加いたしました。

「株式給付信託(BBT)」

1 株式給付信託(BBT)の概要

株式給付信託(BBT)とは、信託が当社の拠出する金銭を原資として当社株式を取得し、当社取締役会が定める役員株式給付規程に従って、信託が当社の取締役及び執行役員（以下、「取締役等」）に対して当社株式を給付するという、株式報酬制度であります。

なお、給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。



当社は、第122回定時株主総会において、本制度について役員報酬の決議を得て、本株主総会で承認を受けた枠組みの範囲内において、「役員株式給付規程」を制定いたしました。

当社は、 の本株主総会決議で承認を受けた枠組みの範囲内で金銭を信託します。

本信託は、 で信託された金銭を原資として当社株式を、取引市場等を通じて又は当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得します。

当社は、「役員株式給付規程」に基づき取締役等にポイントを付与します。

本信託は、当社から独立した信託管理人の指図に従い、本信託勘定内の当社株式に係る議決権を行使しないこととします。

本信託は、取締役等を退任した者のうち「役員株式給付規程」に定める受益者要件を満たした者に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。

2 株式給付信託(BBT)による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役等（社外取締役を除く。）を退任した者のうち「役員株式給付規程」に定める受益者要件を満たした者に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付いたします。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	291	1
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数(注)1、2	2,444		2,444	

(注) 1 当事業年度及び当期間における保有自己株式数には、みずほ信託銀行株式会社の再信託受託者である資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)所有の当社株式は含まれておりません。

なお、みずほ信託銀行株式会社の再信託受託者である資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式は連結財務諸表及び財務諸表において自己株式として表示しております。

2 当期間における保有自己株式数には、2019年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

利益配分は、業績に対応して安定的に配当することを基本としつつ、長期的な事業展開に必要な内部留保の充実に努めます。

内部留保金は、営業拠点拡充・生産設備・研究開発への投資等に充当いたします。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことが出来る。」旨を定款に定めております。

当事業年度の期末配当につきましては、業績に対応して安定的に配当する基本方針のもと、1株につき25円としております。

以上を踏まえまして、当事業年度の配当は、以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2018年7月25日 取締役会 決議	97	25.00
2019年3月22日 定時株主総会 決議	97	25.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期
決算年月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月	2018年12月
最高(円)	249	333	2,778 [283]	4,675	4,490
最低(円)	222	243	2,313 [245]	2,602	2,793

(注) 1 株価は東京証券取引所第一部の市場相場であります。

2 2016年7月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施しているため、第124期の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、株式併合前の最高・最低株価は[]にて記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	3,345	3,165	3,205	3,190	3,170	3,065
最低(円)	3,110	2,975	2,951	2,900	2,960	2,793

(注) 株価は東京証券取引所第一部の市場相場であります。

5 【役員の状況】

男性15名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %))

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長		五十嵐 素一	1958年7月14日生	1982年4月 株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行）へ入行 1987年4月 当社へ入社 1989年3月 取締役 1990年3月 専務取締役 1999年3月 代表取締役専務取締役 2002年3月 代表取締役社長 2017年3月 代表取締役社長執行役員 2018年3月 代表取締役会長（現任）	注3	60,057
代表取締役 社長執行役員		松本 彰	1958年3月20日生	1981年4月 第一生命保険相互会社（現第一生命ホールディングス株式会社）へ入社 2005年4月 同社栃木支社長 2009年2月 当社人事部長 2010年4月 執行役員人事部長 2011年1月 執行役員クリーニング事業本部担当 2011年3月 取締役 2011年3月 クリーニング事業本部長 2012年3月 常務取締役 2014年3月 代表取締役常務取締役 2017年3月 代表取締役常務執行役員 2018年3月 代表取締役社長執行役員（現任）	注3	1,100
取締役 専務執行役員	本社管理 業務統括	小林 正明	1960年11月21日生	1983年4月 株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行）へ入行 2008年4月 同行仙台支店長 2010年2月 同行新橋支店長 2012年2月 当社経営企画部長 2013年3月 取締役 本社管理業務統括 2014年3月 常務取締役 2016年4月 本社管理業務統括兼工場部・洗濯科学研究所担当 2017年3月 取締役常務執行役員 2018年3月 取締役専務執行役員（現任） 本社管理業務統括（現任）	注3	1,100
取締役 常務執行役員	レンタル事 業本部長兼 クリーン サービス事 業本部長兼 リネンサブ ライ事業部 長	井口 弥光	1957年6月13日生	1981年4月 当社へ入社 1998年4月 リネンサプライ相模事業所長 2004年12月 レンタル事業本部長 2008年4月 執行役員レンタル事業本部副担当兼ユニフォームレンタル事業部長 2011年3月 取締役 2012年9月 レンタル事業本部長兼クリーンサービス事業本部長兼ユニフォームレンタル事業部長 2013年3月 常務取締役 2015年1月 レンタル事業本部長兼クリーンサービス事業本部長兼ユニフォームレンタル事業部長兼ハウスケア事業部長 2016年6月 レンタル事業本部長兼クリーンサービス事業本部長兼ユニフォームレンタル事業部長兼リネンサプライ事業部長兼ハウスケア事業部長 2017年3月 取締役常務執行役員（現任） 2018年6月 レンタル事業本部長兼クリーンサービス事業本部長兼リネンサプライ事業部長（現任）	注3	1,100

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 上席執行役員	クリーニング事業本部長兼クリーニング事業部長	武田 順	1966年10月25日生	1989年4月 2004年2月 2006年8月 2007年10月 2009年4月 2017年1月 2017年4月 2018年2月 2018年3月 2018年7月 2019年3月	当社へ入社 湘南支店長 武蔵野支店長 クリーニング事業部長兼お客様相談室長 執行役員クリーニング事業部長兼お客様相談室長 執行役員クリーニング事業部長兼お客様相談室長兼湘南支店長 上席執行役員クリーニング事業部長兼お客様相談室長兼湘南支店長 上席執行役員クリーニング事業部長兼お客様相談室長兼湘南支店長兼東京東支店長 上席執行役員クリーニング事業部長兼湘南支店長兼東京東支店長 上席執行役員クリーニング事業本部長兼クリーニング事業部長(現任) 取締役上席執行役員(現任)	注3	800
取締役 執行役員	工場部長兼洗濯科学研究所長	荻野 仁	1966年7月6日生	1985年4月 2013年1月 2016年1月 2016年11月 2017年4月 2018年3月	当社へ入社 千葉支店長 工場部長 工場部長兼洗濯科学研究所長(現任) 執行役員工場部長兼洗濯科学研究所長 取締役執行役員(現任)	注3	300
取締役		堀尾 則光	1954年1月9日生	1978年4月 2005年4月 2008年3月 2008年4月 2013年6月 2015年4月 2017年4月	第一生命保険相互会社(現第一生命ホールディングス株式会社)へ入社 同社執行役員保有業務部長兼業務企画部長 当社取締役(現任) 第一生命保険相互会社(現第一生命ホールディングス株式会社)常務執行役員 第一生命保険株式会社(現第一生命ホールディングス株式会社)取締役専務執行役員 同社代表取締役副社長執行役員 ネオファースト生命保険㈱代表取締役会長(現任)	注3	
取締役		土井 全一	1953年9月15日生	1976年3月 2009年1月 2010年3月 2012年5月 2015年5月 2017年3月 2017年5月	株式会社松坂屋へ入社 同社取締役兼執行役員営業統括部長 株式会社大丸松坂屋百貨店取締役兼執行役員営業本部営業企画部長 同社取締役兼常務執行役員 J.フロント リテイリング株式会社取締役常務執行役員業務統括部長兼コンプライアンス・リスク管理担当 当社取締役(現任) J.フロント リテイリング株式会社取締役(現任)	注3	
取締役		井口 泰広	1962年3月15日生	1984年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年6月 2016年7月 2017年4月 2018年3月	朝日生命保険相互会社へ入社 同社総務人事統括部門人事ユニットゼネラルマネージャー 同社執行役員事務・システム統括部門契約事務専管部門長 同社執行役員事務・システム統括部門長 同社執行役員代理店事業本部長 黒田精工株式会社在外監査役(現任) 同社取締役執行役員代理店事業本部長 同社取締役常務執行役員(現任) 当社取締役(現任)	注3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役		廣 瀬 慶太郎	1968年12月19日生	1991年4月 1997年5月 2000年5月 2002年5月 2003年5月 2012年3月	株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行）へ入行 株式会社廣瀬商会へ入社 取締役 同社常務取締役 同社代表取締役専務 同社代表取締役社長（現任） 当社取締役（現任）	注3	56
常勤監査役		原 田 俊	1959年12月20日生	1983年4月 2004年2月 2006年8月 2008年7月 2015年4月 2016年1月 2016年3月	当社へ入社 福岡支店長 湘南支店長 東京北支店長 執行役員東京北支店長 執行役員人事部付部長 常勤監査役（現任）	注4	1,000
常勤監査役		斎 藤 隆 夫	1960年4月25日生	1983年4月 2013年1月 2018年3月	当社へ入社 内部統制部長 常勤監査役（現任）	注5	400
監査役		日 下 宗 仁	1951年2月23日生	1975年11月 2003年7月 2010年8月 2012年3月 2012年6月	監査法人太田哲三事務所（現EY新日本有限責任監査法人）へ入所 同法人代表社員 日下公認会計士事務所開設 当社監査役（現任） 株式会社J-オイルミルズ社外監査役	注4	
監査役		山 上 純 一	1952年12月16日生	1975年4月 1997年7月 2001年2月 2002年4月 2004年4月 2006年10月 2006年12月 2012年6月 2012年6月 2015年6月 2016年3月 2016年5月	株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行）へ入行 同行広報部長 同行融資企画室長 同行執行役員秘書室長 同行常務執行役員 株式会社ぎょうせい専務執行役員 同社取締役副社長 名古屋ビルディング株式会社代表取締役社長 東京製網株式会社社外監査役（現任） 名古屋ビルディング株式会社社会長執行役員 当社監査役（現任） 株式会社岩波書店社外監査役（現任）	注4	
監査役		辻 優	1951年5月7日生	1978年4月 2005年9月 2007年3月 2009年1月 2010年8月 2012年1月 2013年10月 2016年3月 2016年4月 2018年3月	外務省入省 大臣官房参事官 防衛参事官 外務事務官在ボストン日本国総領事館総領事 内閣事務次官内閣官房内閣審議官 内閣情報調査室次長 駐クロアチア国特命全権大使 駐オランダ国特命全権大使 同省退官 学習院大学法学部法学科特別客員教授（現任） 当社監査役（現任）	注5	
合計							65,913

- (注) 1 取締役 堀尾則光、土井全一、井口泰広、廣瀬慶太郎は、社外取締役であります。
 2 監査役 日下宗仁、山上純一、辻優は、社外監査役であります。
 3 2018年12月期に係る定時株主総会終結の時から2019年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
 4 2015年12月期に係る定時株主総会終結の時から2019年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
 5 2017年12月期に係る定時株主総会終結の時から2021年12月期に係る定時株主総会終結の時まで
 6 当社では、取締役による監督機能と、執行役員による業務執行機能を分離することで、監督機能の向上及び業務執行に係る意思決定の迅速化を図るために執行役員制度を導入しております。

取締役を兼務していない執行役員は、次の6名であります。

氏名	地位	担当
五十嵐 昌治	上席執行役員	共同リネンサプライ株式会社代表取締役社長
小村 由明	上席執行役員	Hakuyosha International, Inc.代表取締役社長 Dust-TEX Honolulu, Inc.代表取締役社長
伊藤 真次	上席執行役員	ユニフォームレンタル東部事業所長
綿谷 正人	執行役員	名古屋支店長
春山 聡	執行役員	経営企画部長兼システム開発部長
横溝 賢次	執行役員	恒隆白洋舎有限公司董事兼総経理

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

1. 企業統治の体制

- ・当社は監査役設置会社であります。当社は、監査役会を設置し、社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役設置会社形態を採用しております。
- ・取締役会は、当社の規模等に鑑み機動性を重視し、社外取締役4名を含む10名の体制をとっております。取締役会は原則月1回の定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や、経営に関する重要事項を決定するとともに業務執行の状況を監督しております。
- ・社外取締役は、当社の事業環境に識見を持つ方であり、独立した立場から取締役会に出席するほか、各取締役の業務執行について直接報告を受け、経営の監督にあっております。
- ・当社は取締役会への付議事項の事前審議及び取締役会の決定した基本方針に基づき、その業務執行方針・計画・重要な業務の実施等に関する協議機関として執行役員以上をメンバーとする経営会議を原則月2回開催しております。
- ・取締役候補者は半数以上を独立社外取締役で構成する任意の諮問機関（指名委員会）にて決定し、取締役会での承認を得た後、株主総会の決議により、取締役に選任しております。

2. 内部統制システムの基本方針

業務の適正を確保するための体制

当社では、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、2006年5月24日の取締役会において、会社法第362条第4項第6号「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、業務の適正を確保するための体制」（2017年4月26日の取締役会において一部改定）の基本方針を決議しております。

決定内容の概要は以下の通りであります。

- ・当社グループの取締役・執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - イ．当社グループの取締役・執行役員及び従業員に法令・定款の遵守を徹底し、企業倫理に則った行動をとるべく「行動規範」を定め、朝礼・会議等の研修により周知徹底と意識の高揚を図る。
 - ロ．内部通報制度を整備し、当社グループの取締役・執行役員及び従業員が法令・定款違反行為を発見した場合、その他コンプライアンスに関する問題の早期発見及び是正を図るため、内部統制部と弁護士事務所それぞれを窓口とした専用ラインに通報され、公益通報者保護法に基づき適切に対応する体制を確保する。
 - ハ．当社のコンプライアンス担当の取締役が所管する法務コンプライアンス室において、コンプライアンスに係る教育・研修、内部通報制度の運用状況の検証その他コンプライアンスについての取り組みを推進し、取締役会に定期的に報告する。
- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - イ．職務の執行に係る文書その他の情報につき、当社の社内規程、個人情報管理規程及びそれに関する管理マニュアルに従い、適切に保存及び管理を行い、必要に応じて運用状況の検証、各規程の見直しを行う。
 - ロ．株主総会、取締役会、経営会議などの重要議事録は、文書又は電磁的媒体に記録し適切に保存管理する。
- ・損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - イ．業務遂行上の各種リスクへの対応は、担当各部・事業本部が中心となり日々注意を払い、危険な兆候を察知したときは速やかに、リスクマネジメント委員会委員長（代表取締役兼務）に報告し対処する。
 - ロ．全社的な法令定款違反その他の事由に基づく損失の危険に関しては、内部監査室の監査情報、法務コンプライアンス室、リスクマネジメント委員会における情報収集を基に、重大事項は経営陣及び担当部署に報告し対処する。
 - ハ．代表取締役が委員長を務めるリスクマネジメント委員会において、リスク管理の方針の決定、リスク管理規程の整備、運用状況の検証その他リスク管理全般に関する事項について審議し、取締役会に定期的に報告する。

- ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - イ．毎月1回の取締役会の開催のほか、経営会議を月2回開催し、経営陣の意思疎通を円滑に図るとともに、迅速かつ的確な判断を下す。
 - ロ．職務の執行に関しては「職務分掌規程」と「稟議規程」により意思決定の対象範囲と決定権者を定め、手続きの適正を確保する。
 - ハ．内部監査室は公正かつ独立の立場で業務の執行状況を監視し、的確な現状把握と建設的な助言により取締役の職務執行が効率的に行われる体制を確保する。

- ・当社並びに子会社から成る企業集団における、業務の適正を確保するための体制
 - イ．当社は、「白洋舎グループ会社管理規程」に従い、子会社の経営上の重要事項について、管理区分、内容、金額に応じて、事前協議又は報告を求める。
 - ロ．当社と子会社は、「白洋舎グループ会社管理規程」に従いグループ会社会議を開催し、重要な事項について方針を決定し、子会社の業務運営が効率的に行われる体制を確保する。
 - ハ．当社と子会社とのグループ内でのリスク情報の共有とコンプライアンス遵守の目的から、グループ内部統制委員会を開催する。
 - ニ．グループ内部統制委員会は、子会社に損失の危険が発生し、これを把握した場合は直ちに危険の内容、損失の程度及び当社への影響等について、当社の取締役会及び担当部署に報告する体制を構築する。
 - ホ．当社と子会社との間における、利益の付替え、損失の飛ばし等、不適切な取引又は会計処理を防止するため、グループ内部統制委員会は、当社の内部監査室及び子会社のこれに相当する部署と十分な情報交換を行う。
 - ヘ．当社は、「内部監査規程」に従い、内部監査室が公正かつ独立の立場で、子会社の監査を行い、業務の有効性を検証するとともに、子会社の取締役及び従業員の職務執行が法令及び定款に適合することを確保する。

- ・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
 - イ．監査役がその職務を補助すべき人材を置くことを求めた場合には、内部監査室員に委嘱するか、内外から各業務を検証できるだけの専門知識を有する人材を、適切に選任するものとする。

- ・前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
 - イ．前号の使用人を置く場合は、当該使用人の業務は監査に係る業務に限定し、他の業務の執行に係る役職を兼務しないこととする。
 - ロ．当該使用人の任命、人事考課、異動、懲戒については、監査役会の意見を尊重し、指揮命令権は監査役に帰属するものとする。

- ・取締役・執行役員及び使用人が監査役に報告するための体制、及び子会社の取締役、監査役、使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
 - イ．当社の取締役・執行役員及び従業員は、「監査役会規則」及び「監査役監査基準」に従い、各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行うものとする。
 - ロ．子会社の取締役、監査役、従業員は、当社の各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行うものとする。また、子会社の取締役及び従業員は、「白洋舎グループ会社管理規程」に従い資料提出及び報告を行い、当社の子会社管理部署を通じて、間接的に監査役へ報告するものとする。
 - ハ．監査役への報告事項として、主なものは次の通りとする。
 - (a)当社の内部統制システム整備に係る部門の活動状況
 - (b)当社の重要な会計方針、会計基準及びその変更
 - (c)当社の業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
 - (d)内部通報制度の運用状況及びその内容
 - (e)当社の内部監査室の活動状況
 - (f)違法行為・内部不正・苦情・トラブルなど
 - ニ．当社の内部監査室は、監査役と定期的な会合を持ち、内部監査計画、内部監査結果等につき情報交換を行い、連携を確保する。

- ・前号の報告をした者が報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
 - イ．「内部通報規程」に準じて、報告をした者の保護及び機密の保持を図り、報告者に対して解雇その他、法律上、事実上のいかなる不利益取扱いも禁止し、報告者の職場環境が悪化することのないように十分な配慮を行うものとする。

- ・監査役の職務執行について生ずる費用の前払又は償還の手續その他の職務執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
 - イ．通常の監査費用については、監査役の監査計画に基づき、年度経費計画を立案する。
 - ロ．緊急の監査費用、外部の専門家を利用した場合の費用が発生する場合については、監査役は担当部署へ事前に通知するものとする。

- ・その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - イ．監査役・執行役員等の監査が実効的に行われることを確保するため、各部門が協力し調整体制を保ち監査業務執行を妨げない。
 - ロ．取締役・執行役員及び従業員は、監査役からその監査業務執行に関する事項の報告・調査を求められた場合は、速やかに当該事項について報告する体制を確保する。
 - ハ．監査役会は、代表取締役と定期的に会合を持ち、代表取締役の業務執行方針の確認、会社が対処すべき課題、会社を取り巻くリスクのほか、監査役監査の環境整備状況、監査上の重要事項などについて意見交換するものとする。
 - ニ．監査役会は、会計監査人と定期的に会合を持ち、情報交換を行う機会を確保する。

- ・当社の反社会的勢力排除に向けた方針及び反社会的勢力排除に向けた体制の整備状況
 - イ．反社会的勢力排除に向けた方針
白洋舎グループは、社会に脅威を与える反社会的勢力、団体との一切の関係をもたない。
 - ロ．反社会的勢力排除に向けた体制の整備状況
公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会や弁護士等の外部専門機関との密接な連携関係を構築すると共に、行動規範等を通して従業員へ反社会的勢力関係排除の徹底を図る。
本社・各支店・事業所の責任者が管轄する警察署との情報連絡を密に行い、反社会的勢力の動向把握に努める。
必要に応じて、研修会に参加し、悪質な特殊暴力への対応準備を整える。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査体制は、内部監査部門として内部統制部（５名）を設置し、会社法及び金融商品取引法上の内部統制システムの整備・改善及び業務の遂行が、各種法令や、当社の各種規程類及び経営計画などに準拠して実施されているか、効果的、効率的に行われているかなどについて調査・チェックし、指導・改善に向けた内部監査を行っております。

監査役会は常勤監査役２名、社外監査役３名の計５名体制をとっております。各監査役は監査役会が定めた監査役監査基準、監査計画及び職務分担に基づき、監査業務を誠実に実行いたしております。

社外監査役の内１名は金融機関の役付役員の経験があり、他の１名は公認会計士であり財務・会計に関して相当程度の知見を有しております。

監査役会、内部統制部及び会計監査人は必要に応じ相互に情報及び意見の交換を行うなど連携を強め、監査品質の質的向上に努めております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は4名であり、社外監査役は3名であります。

社外取締役4名のうち、取締役堀尾則光氏は、ネオファースト生命保険株式会社の代表取締役会長であります。当社は、同社との間に特別な関係はありません。取締役土井全一氏は、J・フロントリテイリング株式会社の取締役を兼任しております。当社は、その子会社の株式会社大丸松坂屋百貨店との間に店及び商品購入等の取引関係があります。取締役井口泰広氏は、朝日生命相互会社の取締役常務執行役員であります。当社と同社との間に保険等の取引関係があります。取締役廣瀬慶太郎氏は、株式会社廣瀬商会の代表取締役社長であります。当社は同社との間に製品購入等の取引関係があります。

社外監査役3名のうち、日下宗仁氏は公認会計士として、高度な専門的知見を有しております。山上純一氏は金融機関の役員や会社経営の経験があります。辻優氏は、国際情勢・経済・文化等に関する高い見識を有しております。

社外監査役について、その経歴等から社外監査役として当社の監査に有用な意見をいただいていると判断しております。

なお、当社と各社外取締役及び各社外監査役との間には、人的関係、資本的関係、またはその他の利害関係など特別な利害関係はありません。

また、社外取締役全員及び社外監査役全員を東京証券取引所に対し、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として指定して届け出ております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、選任にあたっては証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

社外取締役及び社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査、会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係は、必要に応じて報告及び情報交換並びに意見交換を行うなど、意思疎通を図り、監督または査の実効性の確保に努めております。

役員の報酬等

1. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	役員株式給付 引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	137	124	13	5
監査役 (社外監査役を除く。)	23	23		2
社外役員	33	33		9

2. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

3. 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

4. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役及び監査役の報酬(賞与含む)につきましては、株主総会の決議により、取締役全員及び監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を決定しており、この点で株主の皆さまの監視が働く仕組みとなっております。各取締役の報酬額は、半数以上を独立社外取締役で構成する任意の諮問機関(報酬委員会)にて決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

これに加え当社は、社外取締役を除く取締役に対して、2015年3月27日開催の第122回定時株主総会に基づき、「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」を導入いたしました。

本制度は、当社が制度遂行に必要、合理的な金銭を原資として信託に拠出し、信託がこれにより当社株式を取得し、原則として取締役が退任する際に、当社取締役会が定める役員株式給付規程に従って当社株式を給付するものです。これにより取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆さまと共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献意識を高めることを目的としております。

株式の保有状況

1. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	19銘柄
貸借対照表計上額の合計額	2,227百万円

2. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度(2017年12月31日現在)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)サカタのタネ	190,000	742	事業上の関係強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,535,500	518	金融機関との安定的取引維持
三菱鉛筆(株)	132,000	325	事業上の関係強化
帝国繊維(株)	101,000	228	事業上の関係強化
味の素(株)	100,000	212	事業上の関係強化
富士急行(株)	48,187	156	取引先との関係強化
養命酒製造(株)	51,500	134	事業上の関係強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,800	130	金融機関との安定的取引維持
(株)帝国ホテル	46,400	101	取引先との関係強化
藤田観光(株)	17,200	60	取引先との関係強化
(株)三越伊勢丹ホールディングス	23,800	33	取引先との関係強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	40,000	33	金融機関との安定的取引維持
(株)ピケンテクノ	6,575	5	取引先との関係強化
ロイヤルホールディングス(株)	1,700	5	取引先との関係強化
京浜急行電鉄(株)	1,071	2	取引先との関係強化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
J.フロントリテイリング(株)	420,500	892	当社が所有していた株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については当社の指図により行使されることになっております。
ライオン(株)	331,000	708	
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	44,800	200	

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

当事業年度(2018年12月31日現在)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
(株)サカタのタネ	190,000	640	事業上の関係強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	2,535,500	431	金融機関との安定的取引維持
三菱鉛筆(株)	132,000	286	事業上の関係強化
帝国繊維(株)	101,000	219	事業上の関係強化
富士急行(株)	48,187	156	取引先との関係強化
養命酒製造(株)	51,500	114	事業上の関係強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,800	97	金融機関との安定的取引維持
(株)帝国ホテル	46,400	86	取引先との関係強化
藤田観光(株)	17,200	47	取引先との関係強化
(株)三越伊勢丹ホールディングス	23,800	28	取引先との関係強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	40,000	21	金融機関との安定的取引維持
(株)ピケンテクノ	6,808	5	取引先との関係強化
ロイヤルホールディングス(株)	1,700	4	取引先との関係強化
京浜急行電鉄(株)	1,141	2	取引先との関係強化

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
J.フロントリテイリング(株)	420,500	529	当社が所有していた株式を退職給付信託として委託した信託財産であり、議決権については当社の指図により行使されることになっております。
ライオン(株)	331,000	754	
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	44,800	180	

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

3. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、EY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し同監査法人が会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を実施しております。

- ・業務を執行した公認会計士及び継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員 會田 将之氏(継続監査年数5年)
指定有限責任社員 業務執行社員 江村 羊奈子氏(継続監査年数3年)
- ・監査業務に係る補助者の構成
公認会計士・・・7名 その他・・・6名

取締役会で決議できる株主総会決議事項

1. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

2. 中間配当

当社は、取締役会の決議により、毎年6月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当をすることができる旨、定款に定めております。

これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役との間に、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。ただし、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

取締役の定数

当社の取締役は11名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、当該株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	56		56	
連結子会社				
計	56		56	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案、協議し、会社法第399条に基づき、監査役会の同意を得た上で決定することとしています。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(自2018年1月1日 至2018年12月31日)及び事業年度(自2018年1月1日 至2018年12月31日)の連結財務諸表及び財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けている新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日に名称を変更し、EY新日本有限責任監査法人となりました。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等に反映できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当連結会計年度 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	983	1,089
受取手形及び売掛金	4 4,617	4 4,530
たな卸資産	1 6,908	1 6,831
繰延税金資産	227	230
その他	818	1,018
貸倒引当金	30	30
流動資産合計	13,525	13,669
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 20,760	2 20,959
減価償却累計額及び減損損失累計額	14,221	14,562
建物及び構築物（純額）	6,538	6,397
機械装置及び運搬具	9,761	9,892
減価償却累計額及び減損損失累計額	7,291	7,284
機械装置及び運搬具（純額）	2,469	2,607
工具、器具及び備品	1,847	1,803
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,661	1,617
工具、器具及び備品（純額）	186	185
土地	2 6,705	2 6,427
リース資産	2,868	3,122
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,667	1,973
リース資産（純額）	1,201	1,148
建設仮勘定	24	183
有形固定資産合計	17,125	16,949
無形固定資産		
無形固定資産合計	534	574
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 3 3,487	2, 3 2,968
差入保証金	1,709	1,684
繰延税金資産	1,293	1,553
退職給付に係る資産	-	688
その他	167	155
貸倒引当金	94	91
投資その他の資産合計	6,563	6,959
固定資産合計	24,224	24,482
資産合計	37,749	38,152

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当連結会計年度 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 3,138	4 3,174
短期借入金	2 2,649	2 1,914
1年内返済予定の長期借入金	2 2,710	2 3,140
1年内償還予定の社債	45	35
リース債務	728	761
未払法人税等	322	429
賞与引当金	224	212
株主優待引当金	22	20
預り金	483	437
その他	2,048	1,855
流動負債合計	12,372	11,980
固定負債		
社債	72	37
長期借入金	2, 5 7,362	2, 5 7,867
リース債務	2,187	1,844
役員退職慰労引当金	39	38
役員株式給付引当金	58	79
環境対策引当金	63	61
退職給付に係る負債	3,314	4,380
繰延税金負債	107	128
資産除去債務	267	279
その他	1,491	1,446
固定負債合計	14,965	16,163
負債合計	27,338	28,144
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	4,744	4,810
自己株式	294	291
株主資本合計	8,363	8,431
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,127	784
為替換算調整勘定	26	33
退職給付に係る調整累計額	292	183
その他の包括利益累計額合計	1,394	933
非支配株主持分	653	641
純資産合計	10,411	10,007
負債純資産合計	37,749	38,152

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 1月 1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年 1月 1日 至 2018年12月31日)
売上高	50,738	50,816
売上原価	43,273	43,702
売上総利益	7,464	7,113
販売費及び一般管理費		
運搬費	860	824
役員報酬	327	343
給料手当及び賞与	2,082	2,117
退職給付費用	128	100
役員退職慰労引当金繰入額	9	8
役員株式給付引当金繰入額	26	25
賞与引当金繰入額	34	36
株主優待引当金繰入額	27	23
減価償却費	248	234
その他	2,382	2,365
販売費及び一般管理費合計	1 6,127	1 6,079
営業利益	1,336	1,034
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	47	50
持分法による投資利益	15	43
保険配当金	33	60
受取補償金	95	92
為替差益	55	3
その他	147	164
営業外収益合計	395	416
営業外費用		
支払利息	226	215
シンジケートローン手数料	0	0
リース解約損	7	9
その他	22	16
営業外費用合計	257	241
経常利益	1,475	1,209

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	3 0	3 148
投資有価証券売却益	0	134
特別利益合計	0	282
特別損失		
固定資産処分損	2 26	2 47
減損損失	4 20	4 561
特別損失合計	46	608
税金等調整前当期純利益	1,429	883
法人税、住民税及び事業税	632	635
法人税等調整額	316	41
法人税等合計	316	593
当期純利益	1,112	289
非支配株主に帰属する当期純利益 又は非支配株主に帰属する当期純損失()	62	9
親会社株主に帰属する当期純利益	1,050	299

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
当期純利益	1,112	289
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	137	343
為替換算調整勘定	47	0
退職給付に係る調整額	492	109
持分法適用会社に対する持分相当額	30	7
その他の包括利益合計	1,708	460
包括利益	1,821	170
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,747	161
非支配株主に係る包括利益	73	9

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	2,410	1,495	3,851	236	7,519	989	93	200	696	590	8,807
会計方針の変更による累積的影響額			77		77					0	77
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,410	1,495	3,928	236	7,597	989	93	200	696	590	8,884
当期変動額											
剰余金の配当			233		233						233
親会社株主に帰属する当期純利益			1,050		1,050						1,050
自己株式の取得				58	58						58
共通支配下の取引に係る親会社の持分変動		7			7						7
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						137	67	492	697	62	760
当期変動額合計		7	816	58	766	137	67	492	697	62	1,526
当期末残高	2,410	1,503	4,744	294	8,363	1,127	26	292	1,394	653	10,411

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	2,410	1,503	4,744	294	8,363	1,127	26	292	1,394	653	10,411
当期変動額											
剰余金の配当			233		233						233
親会社株主に帰属する当期純利益			299		299						299
自己株式の取得				1	1						1
自己株式の処分				4	4						4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						343	7	109	460	11	472
当期変動額合計			65	3	68	343	7	109	460	11	403
当期末残高	2,410	1,503	4,810	291	8,431	784	33	183	933	641	10,007

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,429	883
減価償却費	1,460	1,484
減損損失	20	561
有形固定資産除却損	24	42
有形固定資産売却損益(は益)	0	148
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	3
賞与引当金の増減額(は減少)	12	11
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1	1
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	26	25
退職給付に係る資産の増減額(は増加)		688
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	220	907
受取利息及び受取配当金	48	51
支払利息	226	215
為替差損益(は益)	57	4
持分法による投資損益(は益)	15	43
投資有価証券売却損益(は益)	0	134
売上債権の増減額(は増加)	205	92
たな卸資産の増減額(は増加)	62	219
仕入債務の増減額(は減少)	380	34
未払消費税等の増減額(は減少)	309	168
その他	81	285
小計	3,170	2,926
利息及び配当金の受取額	58	61
利息の支払額	228	216
法人税等の支払額	887	480
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,113	2,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,130	1,465
有形固定資産の売却による収入	1	163
無形固定資産の取得による支出	61	197
投資有価証券の取得による支出	5	5
投資有価証券の売却による収入	0	189
その他	28	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,224	1,340
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	7,210	8,303
短期借入金の返済による支出	7,191	9,037
長期借入れによる収入	1,980	3,688
長期借入金の返済による支出	2,521	2,755
社債の発行による収入	100	
社債の償還による支出	52	45
自己株式の取得による支出	61	1
リース債務の返済による支出	729	760
配当金の支払額	233	233
非支配株主への配当金の支払額	3	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,503	844
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	594	105
現金及び現金同等物の期首残高	1,570	975
現金及び現金同等物の期末残高	975	1,081

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数は11社であります。

主要な連結子会社の名称

共同リネンサプライ㈱

白洋舎栄リネンサプライ㈱

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社は次の2社であります。

東京ホールセール㈱

恒隆白洋舎有限公司

(2) 持分法を適用しない関連会社

持分法を適用しない主要な関連会社

日本スエードライフ㈱

(3) 持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

3 連結子会社及び持分法適用会社の事業年度に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は、9月30日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(2) 持分法適用会社のうち、決算日が異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

・有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は、総平均法により算定し、評価差額は、全部純資産直入法により処理しております。)

時価のないもの

総平均法による原価法

・たな卸資産

商品、貯蔵品.....主として先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

使用中リネン...レンタル営業に使用中の布帛類の評価額で消耗計算は次のように行うこととしております。

(当社及び国内連結子会社)

イ. ホテルリネン...3年定率

ロ. ユニフォームレンタル及びケミサプライ...一定耐用期間にわたり定額又は3年定率

(在外連結子会社)

購入時に費用処理

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社

建物

主として定額法

その他の有形固定資産

主として定率法（ただし、2016年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法）

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 3年～13年

工具、器具及び備品 2年～20年

在外連結子会社

建物 定額法

その他の有形固定資産 定率法

なお、耐用年数は5年から39年であります。

無形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、定額法によっております。

なお、当社及び国内連結子会社における自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産（当社及び国内連結子会社）

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

（在外連結子会社）

当該国の会計原則に基づきファイナンス・リース契約によるリース資産を有形固定資産に計上しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社及び国内連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

イ 一般債権……貸倒実績率法によっております。

・

ロ 貸倒懸念債権及び破産更生債権……個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

在外連結子会社についても債権の貸倒れによる損失に備えるため、個別の債権回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、従業員の賞与の支給に備えて、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

株主優待引当金

将来の株主優待制度の利用に備えるため、株主優待制度の利用実績に基づき、当連結会計年度末における株主優待制度利用見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

国内連結子会社は、役員に支給する退職慰労金の支払いに備えるため、当連結会計年度末における役員退職慰労金に関する社内規程に基づく支給見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

役員株式給付引当金

「役員株式給付規程」に基づく当社の取締役及び執行役員への当社株式の交付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

環境対策引当金

将来の環境対策に要する支出（土壌改良工事等の環境関連費用）のうち、当連結会計年度において発生していると認められる金額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上し、年金資産の額が退職給付債務を超える場合には退職給付に係る資産として投資その他の資産に計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を定額法により翌連結会計年度より費用処理することとしております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

一部の連結子会社は退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産及び負債は決算日の直物為替相場により円貨換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

(ヘッジ手段)

金利スワップ

(ヘッジ対象)

借入金の利息

ヘッジ方針

借入金の金利変動を回避する目的で金利スワップ取引を行っております。ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

稟議規程に基づき決裁され、取締役会において承認を受けております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で規則的に償却しております。なお、金額が僅少ななれんは、当該勘定が生じた期の費用としております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
商品及び製品	297百万円	305百万円
使用中リネン	4,954	5,125
原材料及び貯蔵品	353	327
リース資産	1,302	1,072
計	6,908	6,831

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
建物及び構築物	2,365百万円	2,286百万円
土地	1,924	1,923
投資有価証券	11	9
計	4,301	4,220

担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
短期借入金	1,682百万円	965百万円
1年内返済予定の長期借入金	2,366	2,601
長期借入金	4,318	4,825
計	8,366	8,392

3 関連会社に係る項目

関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
投資有価証券(株式)	531百万円	556百万円

4 当連結会計年度末日満期手形の処理

当連結会計年度末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理しております。従って、当連結会計期間末日は、金融機関の休日であったため、当連結会計年度末日満期手形が以下の科目に含まれております。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
受取手形	5百万円	2百万円
支払手形	33	58

5 財務制限条項

前連結会計年度(2017年12月31日現在)

借入金のうち、2,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

当連結会計年度(2018年12月31日現在)

借入金のうち、2,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
	54百万円	53百万円

- 2 固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
建物及び構築物	18百万円	21百万円
機械装置及び運搬具	6	23
工具、器具及び備品	0	0
無形固定資産	0	
その他(投資その他の資産)	0	1
計	26	47

(注) ある同一の物件の売買契約において、科目別では売却益と売却損がそれぞれ発生しておりますが、純額で固定資産処分損に計上しております。

- 3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
機械装置及び運搬具	0百万円	0百万円
土地		147
計	0	148

4 減損損失の内訳は次のとおりであります。

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
広島支店 広島県広島市西区	クリーニング工場及び店舗	建物及び構築物、工具、器具 及び備品、リース資産等	20

当社グループは、事業用資産については、支店及び事業所を最小単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、市況の悪化により、広島支店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(20百万円)として、特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物9百万円、工具、器具及び備品1百万円、リース資産7百万円及びその他0百万円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額等により、評価しております。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
京都支店 京都府京都市南区	クリーニング工場及び店舗	建物及び構築物、土地	527
千葉支店 千葉県千葉市美浜区		建物及び構築物、機械装置及 び運搬具、工具、器具及び備 品、リース資産等	34

当社グループは、事業用資産については、支店及び事業所を最小単位としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、市況の悪化により、京都支店及び千葉支店に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(561百万円)として、特別損失に計上いたしました。

その内訳は、京都支店527百万円(内、建物及び構築物42百万円、土地484百万円)、千葉支店34百万円(内、建物及び構築物11百万円、機械装置及び運搬具1百万円、工具、器具及び備品2百万円、リース資産17百万円、その他1百万円)であります。

なお、京都支店に係る資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュフローを2.5%で割り引いて算出しております。千葉支店に係る資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、不動産鑑定評価額等により、評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	197百万円	359百万円
組替調整額		134
税効果調整前	197	493
税効果額	59	150
その他有価証券評価差額金	137	343
為替換算調整勘定		
当期発生額	47	0
為替換算調整勘定	47	0
退職給付に係る調整額		
当期発生額	508	255
組替調整額	202	97
税効果調整前	711	158
税効果額	218	48
退職給付に係る調整額	492	109
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	30	7
その他の包括利益合計	708	460

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,900,000			3,900,000
合計	3,900,000			3,900,000
自己株式				
普通株式(注)	71,471	20,443		91,914
合計	71,471	20,443		91,914

(注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加のうち、300株は単元未満株式の買取による増加、243株は関連会社の自己株式(白洋舎株式)の取得による当社帰属分の増加、19,900株は株式給付信託(BBT)の取得による増加であります。

2 当連結会計年度期首の普通株式に、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式12,400株が含まれており、当連結会計年度末の普通株式に、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式32,300株が含まれております。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年3月24日 定時株主総会	普通株式	136	35.00	2016年12月31日	2017年3月27日

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年7月26日 取締役会	普通株式	97	25.00	2017年6月30日	2017年9月25日

(注) 1 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2016年12月31日基準日:12,400株)に対する配当金434千円が含まれております。

2 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2017年6月30日基準日:32,300株)に対する配当金807千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年3月23日 定時株主総会	普通株式	136	利益剰余金	35.00	2017年12月31日	2018年3月26日

(注) 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2017年12月31日基準日:32,300株)に対する配当金1,130千円が含まれております。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,900,000			3,900,000
合計	3,900,000			3,900,000
自己株式				
普通株式(注)	91,914	494	1,770	90,638
合計	91,914	494	1,770	90,638

(注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加のうち、291株は単元未満株式の買取による増加、203株は関連会社の自己株式(白洋舎株式)の取得による当社帰属分の増加、1,770株は株式給付信託(BBT)の給付による減少であります。

2 当連結会計年度期首の普通株式に、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式32,300株が含まれており、当連結会計年度末の普通株式に、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式30,530株が含まれております。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年3月23日 定時株主総会	普通株式	136	35.00	2017年12月31日	2018年3月26日

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年7月25日 取締役会	普通株式	97	25.00	2018年6月30日	2018年9月25日

(注) 1 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2017年12月31日基準日: 32,300株)に対する配当金1,130千円が含まれております。

2 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2018年6月30日基準日: 30,530株)に対する配当金763千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年3月22日 定時株主総会	普通株式	97	利益剰余金	25.00	2018年12月31日	2019年3月25日

(注) 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2018年12月31日基準日: 30,530株)に対する配当金763千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
現金及び預金勘定	983百万円	1,089百万円
損害保険代理店勘定	7	7
現金及び現金同等物	975	1,081

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産の額は397百万円、負債の額は419百万円です。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産の額は413百万円、負債の額は451百万円です。

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

- ・流動資産.....レンタル事業における使用中リネンであります。
- ・有形固定資産...クリーニング機械(機械及び装置)等であります。
- ・無形固定資産...ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組指針

当社及び連結子会社は、調達コストとリスク分散の観点による長期と短期のバランスを見ながら、普通社債及び金融機関からの借入等による資金調達を行っております。資金運用については預金等、安全性の高い金融商品に限定しております。デリバティブ取引は、後述するリスクのヘッジを目的としております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また借入金のうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、金利変動リスクを低減する目的のみに限定しております。

取引の利用目的は長期借入金の支払利息に係る金利上昇の影響を回避、または一定の枠内にとどめる目的において利用しております。

なお、特例処理の要件を満たす金利スワップについてはヘッジ会計を行っております。ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「4 会計方針に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、各事業部門又は営業管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクにさらされる金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、借入金等に係る金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、契約先は信用度の高い国内銀行であり、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと判断しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社及び主な国内連結子会社は、連結有利子負債の削減及び参加会社における流動性リスク低減のため、キャッシュマネジメントシステムを導入していることから、当該システム参加会社の流動性リスクの管理については、幹事会社である当社が行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、（デリバティブ取引関係）におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。重要性の乏しいものは省略しております。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

((注) 2 参照)

前連結会計年度(2017年12月31日)

	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	983	983	
受取手形及び売掛金	4,617	4,617	
投資有価証券 其他有価証券	2,823	2,823	
差入保証金	1,709		
貸倒引当金	91		
	1,618	1,645	27
資産計	10,042	10,070	27
支払手形及び買掛金	3,138	3,138	
短期借入金	2,649	2,649	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む。)	10,072	10,086	13
リース債務(1年以内に返済予定のものを含む。)	2,915	2,924	9
負債計	18,776	18,799	22
デリバティブ取引			

差入保証金に対する個別貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(2018年12月31日)

	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	1,089	1,089	
受取手形及び売掛金	4,530	4,530	
投資有価証券 其他有価証券	2,280	2,280	
差入保証金	1,684		
貸倒引当金	91		
	1,593	1,623	29
資産計	9,493	9,523	29
支払手形及び買掛金	3,174	3,174	
短期借入金	1,914	1,914	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを含む。)	11,008	11,018	10
リース債務(1年以内に返済予定のものを含む。)	2,606	2,612	6
負債計	18,703	18,719	16
デリバティブ取引			

差入保証金に対する個別貸倒引当金を控除しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

差入保証金

差入保証金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、適切な指標の利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

支払手形及び買掛金、 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金（１年以内に返済予定のものを含む。）

長期借入金の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

リース債務（１年以内に返済予定のものを含む。）

リース債務の時価の算定は、元利金の合計額を、同様の新規リースを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額
(単位：百万円)

区分	2017年12月31日	2018年12月31日
非上場株式	132	132

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2017年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年 以内 (百万円)	5年超10年 以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	983			
受取手形及び売掛金	4,617			
差入保証金	758	864	71	15
合計	6,359	864	71	15

当連結会計年度(2018年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年 以内 (百万円)	5年超10年 以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	1,089			
受取手形及び売掛金	4,530			
差入保証金	781	834	55	14
合計	6,400	834	55	14

(注) 4 社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2017年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債(1年以内償還予定のものを 含む。)	45	35	25	12		
長期借入金(1年以内返済予定の ものを含む。)	2,710	2,466	1,612	2,836	233	212
リース債務(流動負債を含む。)	728	702	654	449	184	196
合計	3,484	3,204	2,292	3,298	417	409

当連結会計年度(2018年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債(1年以内償還予定のものを含む。)	35	25	12			
長期借入金(1年以内返済予定のものを含む。)	3,140	2,356	3,567	947	730	264
リース債務(流動負債を含む。)	761	716	512	250	155	209
合計	3,937	3,098	4,092	1,197	885	474

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2017年12月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	2,823	1,205	1,618
小計	2,823	1,205	1,618
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式			
小計			
合計	2,823	1,205	1,618

(注) 非上場株式132百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「株式」には含めておりません。

当連結会計年度(2018年12月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	2,232	1,101	1,130
小計	2,232	1,101	1,130
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	47	54	6
小計	47	54	6
合計	2,280	1,155	1,124

(注) 非上場株式132百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「株式」には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(2017年12月31日)

売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(2018年12月31日)

区分	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
株式の売却額(百万円)	189
株式の売却益の合計額(百万円)	134

3 連結会計年度に減損処理を行ったその他有価証券

前連結会計年度(2017年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2018年12月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(2017年12月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取流動	長期借入金	1,730	831	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2018年12月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取流動	長期借入金	1,331	682	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（積立型制度であります。）では、従業員の職能資格と勤続年数を基礎とするポイントに基づいて計算された年金又は一時金を支給しております。また、退職給付信託を設定しております。

退職給付一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、従業員の職能資格と勤続年数を基礎とするポイントに基づいて計算された一時金を支給しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職金一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
退職給付債務の期首残高	8,946	8,813
勤務費用	358	392
利息費用	80	79
数理計算上の差異の発生額	5	160
退職給付の支払額	577	554
過去勤務費用の発生額		32
退職給付債務の期末残高	8,813	8,538

年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
年金資産の期首残高	5,582	5,956
期待運用収益	0	0
数理計算上の差異の発生額	513	447
事業主からの拠出額	168	169
退職給付の支払額	307	330
年金資産の期末残高	5,956	5,347

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度32.9%、当連結会計年度30.8%含まれております。

簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	441	457
退職給付費用	51	87
退職給付の支払額	34	43
退職給付に係る負債の期末残高	457	501

退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表（簡便法を適用した制度を含む。）

	(百万円)	
	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当連結会計年度 (2018年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	4,773	4,659
年金資産	5,956	5,347
	1,183	688
非積立型制度の退職給付債務	4,498	4,380
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,314	3,692
退職給付に係る負債	3,314	4,380
退職給付に係る資産		688
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,314	3,692

退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
勤務費用	358	392
利息費用	80	79
期待運用収益	0	0
数理計算上の差異の費用処理額	202	97
過去勤務費用の費用処理額		0
簡便法で計算した退職給付費用	51	87
確定給付制度に係る退職給付費用	693	656

退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
数理計算上の差異	711	189
過去勤務費用		31
合計	711	158

退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当連結会計年度 (2018年12月31日)
未認識数理計算上の差異	423	233
未認識過去勤務費用		31
合計	423	265

年金資産に関する事項

イ．年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当連結会計年度 (2018年12月31日)
債券	10%	10%
株式	45	41
生命保険一般勘定	30	32
その他	15	17
合計	100	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度32.9%、当連結会計年度30.8%含まれております。

ロ．長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来確実に期待される長期の収益率を考慮しております。

数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
割引率	0.9%	0.9%
長期期待運用収益率	0%	0%
予想昇給率	1.9% ~ 4.3%	1.9% ~ 4.1%

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
繰延税金資産		
賞与引当金	74百万円	70百万円
株主優待引当金	6	6
役員退職慰労引当金	12	12
役員株式給付引当金	17	24
貸倒引当金	38	36
環境対策引当金	0	20
退職給付に係る負債	1,339	1,760
減価償却	42	30
減損損失	170	326
資産除去債務	83	85
未実現利益	1,030	1,030
繰越欠損金	278	260
投資有価証券の評価損	20	20
未払事業税	41	40
未払事業所税	17	17
ゴルフ会員権評価損	5	4
支配獲得による資産時価評価	62	39
その他	119	108
小計	3,363	3,895
評価性引当額	444	614
繰延税金資産合計	2,919	3,281
繰延税金負債		
退職給付に係る資産		304
圧縮記帳積立金	432	467
退職給付信託設定益	192	192
支配獲得による資産時価評価	129	128
その他有価証券評価差額金	489	339
資産除去債務に対応する除去費用	18	21
その他	242	172
繰延税金負債合計	1,505	1,626
繰延税金資産の純額	1,413	1,654

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
流動資産 - 繰延税金資産	227百万円	230百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,293	1,553
流動負債 - その他	0	
固定負債 - 繰延税金負債	107	128

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
法定実効税率 (調整)	30.86%	30.86%
住民税均等割	8.19	12.97
評価性引当額の増減	15.41	19.37
交際費の損金不算入	1.60	2.48
持分法による投資損益	0.34	1.51
法定実効税率と税効果会計適用税率との差異	0.08	1.90
受取配当金の益金不算入	0.33	0.59
その他	2.49	1.73
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.16	67.21

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1)当該資産除去債務の概要

店舗、営業所、倉庫等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務及び石綿障害予防規則等に伴うアスベスト除去費用であります。

(2)当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得より10年から47年と見積り、割引率は0.000%から1.300%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3)当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
期首残高	265百万円	267百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	8	23
資産除去債務の履行に伴う減少額	6	12
時の経過による調整額	0	0
期末残高	267	279

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸のオフィスビル等を所有しております。

なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度の主な変動並びに当連結会計年度末の時価及び当該時価の算定方法は次のとおりであります。

(単位：百万円)

			前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
賃貸等不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	362	350
		期中増減額	11	1
		期末残高	350	348
	期末時価		1,611	1,585
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	2,426	2,371
		期中増減額	54	23
		期末残高	2,371	2,347
	期末時価		5,261	5,560

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、不動産の取得(5百万円)、減少は、不動産の減価償却(72百万円)であります。
当連結会計年度の主な増加は、不動産取得(50百万円)、減少は、不動産の売却(0百万円)、不動産の除却(3百万円)及び不動産の減価償却(70百万円)であります。
- 3 時価の算定方法
期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて不動産鑑定士が算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

			前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
賃貸等不動産	賃貸収益		95	94
	賃貸費用		18	18
	差額		77	75
	その他(売却損益等)			144
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	賃貸収益		456	371
	賃貸費用		148	128
	差額		308	242
	その他(売却損益等)			

- (注) 1 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、物品の販売、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の子会社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておりません。
なお、当該不動産に係る費用(減価償却、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。
- 2 当連結会計年度のその他(売却損益等)は、売却益144百万円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、主として事業別のセグメントから構成されており、「クリーニング」「レンタル」及び「不動産」の3つを報告セグメントとしております。

「クリーニング」は個人及び法人のドライクリーニング品、ランドリー品等の洗濯、仕上、加工等を取扱う事業であります。

「レンタル」はホテル、レストラン、会社等のユニフォームやシーツ、ホーフ等のクリーニング付レンタルを取扱う事業であります。

「不動産」は不動産の賃貸及び管理・仲介を取扱う事業であります。

いずれの報告セグメントも、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

	報告セグメント				その他 (注1) (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注3) (百万円)	連結財務諸 表計上額 (注4) (百万円)
	クリー ン グ (百万円)	レン タ ル (百万円)	不動 産 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
外部顧客への売上高	23,951	23,159	639	47,750	2,987	50,738		50,738
セグメント間の内部 売上高又は振替高	288	31	207	527	2,429	2,957	2,957	
計	24,240	23,190	847	48,278	5,417	53,695	2,957	50,738
セグメント利益	1,029	1,570	442	3,042	247	3,289	1,952	1,336
セグメント資産	10,951	17,137	4,094	32,184	2,065	34,249	3,500	37,749
その他の項目								
減価償却費(注2)	540	621	105	1,267	20	1,288	172	1,460
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額 (注2)	497	902	7	1,408	22	1,430	325	1,756

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハウスクリーニングやモップ、マット等のレンタルを行うクリーンサービス事業や、洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業を含んでおります。

2 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の償却費と増加額が含まれております。

3 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額 1,952百万円には、セグメント間消去57百万円、各セグメントに配賦していない
全社費用 2,010百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であり
ます。

(2)セグメント資産の調整額3,500百万円には、セグメント間の債権の相殺消去等が 8,364百万円、全社資産
が11,864百万円が含まれております。全社資産の主なものは、当社での余資運用資金、長期投資資金(持
分法適用関連会社株式を含む)、繰延税金資産及び管理部門に係る資産等であります。

4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

	報告セグメント				その他 (注1) (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注3) (百万円)	連結財務諸 表計上額 (注4) (百万円)
	クリー ン グ (百万円)	レン タル (百万円)	不動 産 (百万円)	計 (百万円)				
売上高								
外部顧客への売上高	23,827	23,479	532	47,838	2,977	50,816		50,816
セグメント間の内部 売上高又は振替高	312	35	221	570	2,197	2,768	2,768	
計	24,140	23,514	753	48,409	5,175	53,584	2,768	50,816
セグメント利益	1,101	1,260	373	2,734	227	2,962	1,928	1,034
セグメント資産	10,514	17,479	4,062	32,056	2,138	34,194	3,957	38,152
その他の項目								
減価償却費(注2)	547	662	107	1,317	20	1,337	147	1,484
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額 (注2)	598	1,121	73	1,793	0	1,793	198	1,992

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハウスクリーニングやモップ、マット等のレンタルを行うクリーンサービス事業や、洗濯機械販売、修理、各種洗濯資材・ユニフォームの製造、販売等を取扱う事業を含んでおります。
- 2 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の償却費と増加額が含まれております。
- 3 調整額は、以下のとおりであります。
- (1)セグメント利益の調整額 1,928百万円には、セグメント間消去41百万円、各セグメントに配賦していない全社費用 1,969百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2)セグメント資産の調整額3,957百万円には、セグメント間の債権の相殺消去等 8,477百万円、全社資産 12,435百万円が含まれております。全社資産の主なものは、当社での余資運用資金、長期投資資金(持分法適用関連会社株式を含む)、繰延税金資産及び管理部門に係る資産等であります。
- 4 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	全社 (百万円)	合計 (百万円)
	クリーニング (百万円)	レンタル (百万円)	不動産 (百万円)	計 (百万円)				
減損損失	20			20		20		20

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

	報告セグメント				その他 (百万円)	合計 (百万円)	全社 (百万円)	合計 (百万円)
	クリーニング (百万円)	レンタル (百万円)	不動産 (百万円)	計 (百万円)				
減損損失	561			561		561		561

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(株)廣瀬商会	東京都 中央区	100	繊維製品卸 売業	被所有 直接2.71	リネン品仕入 役員の兼任	リネンサブ ライ用綿製 品等購入	183	買掛金	52

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1 一般取引先と同様であります。
2 当社取締役廣瀬慶太郎氏及びその近親者が議決権の61.36%を直接保有しております。
3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(株)廣瀬商会	東京都 中央区	100	繊維製品卸 売業	被所有 直接2.71	リネン品仕入 役員の兼任	リネンサブ ライ用綿製 品等購入	225	買掛金	36

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1 一般取引先と同様であります。
2 当社取締役廣瀬慶太郎氏及びその近親者が議決権の61.36%を直接保有しております。
3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等
前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(株)廣瀬商会	東京都 中央区	100	繊維製品卸 売業	被所有 直接2.71	リネン品仕入 役員の兼任	(株)双立他に よるリネン サプライ用 綿製品等購 入	468	支払手形 及び 買掛金	134

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1 一般取引先と同様であります。
2 当社取締役廣瀬慶太郎氏及びその近親者が議決権の61.36%を直接保有しております。
3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(株)廣瀬商会	東京都 中央区	100	繊維製品卸 売業	被所有 直接2.71	リネン品仕入 役員の兼任	(株)双立他に よるリネン サプライ用 綿製品等購 入	375	支払手形 及び 買掛金	118

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1 一般取引先と同様であります。
2 当社取締役廣瀬慶太郎氏及びその近親者が議決権の61.36%を直接保有しております。
3 上記取引金額には、消費税等を含まず、残高には消費税等を含みます。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
1株当たり純資産額	2,562.38円	2,458.61円
1株当たり当期純利益金額	275.36円	78.58円

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。
- 2 株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。
- 1株当たり当期純利益金額の算定上、控除した「株式給付信託(BBT)」の期中平均株式数は、前連結会計年度26,540株、当連結会計年度31,233株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した「株式給付信託(BBT)」の期末株式数は、前連結会計年度32,300株、当連結会計年度30,530株であります。
- 3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日	当連結会計年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,050	299
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,050	299
普通株式の期中平均株式数(株)	3,814,136	3,808,864

- 4 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 2017年12月31日	当連結会計年度 2018年12月31日
純資産の部の合計額(百万円)	10,411	10,007
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	653	641
(うち非支配株主持分(百万円))	(653)	(641)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	9,757	9,365
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	3,808,086	3,809,362

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
共同リネンサプライ株式会社	第11回 無担保社債	2013年 12月27日	30	10 (10)	0.48	無担保社債	2018年 12月27日
共同リネンサプライ株式会社	第12回 無担保社債	2017年 3月31日	87	62 (25)	0.01	無担保社債	2021年 3月31日
合計			117	72 (35)			

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
35	25	12		

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,649	1,914	0.92	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,710	3,140	1.14	
1年以内に返済予定のリース債務	728	761	2.68	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	7,362	7,867	0.97	2020年1月31日～ 2029年5月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,187	1,844	3.00	2020年1月5日～ 2027年11月5日
合計	15,637	15,528		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,356	3,567	947	730
リース債務	716	512	250	155

【資産除去債務明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等	267	23	12	279

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	10,963	25,712	38,011	50,816
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額() (百万円)	592	1,087	1,029	883
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (百万円)	444	665	568	299
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	116.65	174.85	149.37	78.58

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	116.65	291.46	25.46	70.78

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当事業年度 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	453	695
受取手形	3 51	3 34
売掛金	2 2,959	2 3,068
商品	51	51
使用中リネン	3,132	3,147
リース資産	1,222	1,014
貯蔵品	213	198
前払費用	63	61
繰延税金資産	140	142
関係会社短期貸付金	136	97
預け金	382	409
その他	2 265	2 463
貸倒引当金	27	27
流動資産合計	9,044	9,357
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 4,171	1 3,998
借入店舗造作	295	308
構築物	184	180
機械及び装置	736	907
車両運搬具	24	24
工具、器具及び備品	123	129
土地	1 5,234	1 4,958
リース資産	910	913
建設仮勘定	17	183
有形固定資産合計	11,698	11,603
無形固定資産		
電話加入権	44	44
ソフトウェア	385	419
その他	0	9
無形固定資産合計	429	473
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,774	1 2,227
関係会社株式	2,547	2,547
関係会社長期貸付金	1,046	966
長期前払費用	42	38
前払年金費用		381
繰延税金資産	458	624
差入保証金	2 1,850	2 1,828
その他	44	43
貸倒引当金	75	75
投資その他の資産合計	8,688	8,582
固定資産合計	20,816	20,659
資産合計	29,861	30,017

(単位：百万円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当事業年度 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 1,805	2 1,794
短期借入金	1 1,500	1 1,200
1年内返済予定の長期借入金	1 2,397	1 2,650
リース債務	611	650
未払金	2 47	2 135
未払費用	944	935
未払法人税等	158	371
未払事業所税	49	49
未払消費税等	441	287
預り金	2 1,139	2 1,261
賞与引当金	132	119
株主優待引当金	22	20
その他	36	36
流動負債合計	9,287	9,512
固定負債		
長期借入金	1, 4 6,398	1, 4 6,347
リース債務	1,873	1,616
退職給付引当金	3,152	3,712
役員株式給付引当金	58	79
環境対策引当金	1	
資産除去債務	221	232
受入保証金	686	671
その他	154	144
固定負債合計	12,547	12,805
負債合計	21,834	22,317
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金		
資本準備金	1,436	1,436
その他資本剰余金	9	9
資本剰余金合計	1,446	1,446
利益剰余金		
利益準備金	602	602
その他利益剰余金	2,569	2,583
圧縮記帳積立金	905	985
繰越利益剰余金	1,663	1,597
利益剰余金合計	3,171	3,185
自己株式	93	90
株主資本合計	6,933	6,951
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,093	747
評価・換算差額等合計	1,093	747
純資産合計	8,026	7,699
負債純資産合計	29,861	30,017

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)	当事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)
売上高	2 36,674	2 36,943
売上原価	2 34,053	2 34,174
売上総利益	2,620	2,768
販売費及び一般管理費	1, 2 2,015	1, 2 1,972
営業利益	605	796
営業外収益		
受取利息及び配当金	184	180
受取保険金	29	46
受取補償金	63	57
保険配当金	3	14
その他	83	84
営業外収益合計	2 364	2 383
営業外費用		
支払利息	180	172
シンジケートローン手数料	0	0
リース解約損	7	9
その他	5	5
営業外費用合計	2 193	2 187
経常利益	776	992
特別利益		
固定資産売却益		144
投資有価証券売却益	0	134
特別利益合計	0	278
特別損失		
固定資産処分損	19	18
減損損失	20	561
特別損失合計	39	580
税引前当期純利益	737	690
法人税、住民税及び事業税	333	464
法人税等調整額	196	22
法人税等合計	136	442
当期純利益	600	247

【売上原価明細書】

当社の事業はサービス業であって工料売上原価を厳格に区分することは困難であります。工場作業費と集配及び店舗費を売上原価として計上しております。

区分	注記 番号	前事業年度 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日		当事業年度 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日	
		金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
工料売上原価					
(1) 労務費					
1 作業労務費		3,370		3,408	
2 賞与引当金繰入額		37		34	
3 退職給付費用		174	3,581	162	3,605
(2) 外注作業費					
外注作業費		7,167	7,167	7,100	7,100
(3) 資材費					
1 作業用資材費		899		843	
2 リネン消耗費		2,412	3,312	2,474	3,318
(4) 工場間接費					
1 水道光熱費		873		895	
2 減価償却費		531		554	
3 租税公課		86		92	
4 その他経費		2,376	3,867	2,402	3,945
工場作業費計			17,929		17,969
(5) 集配及び店舗費					
1 集配及び運搬費		1,016		1,040	
2 広告宣伝費		140		151	
3 給料手当		6,799		6,744	
4 賞与引当金繰入額		84		74	
5 退職給付費用		362		331	
6 福利厚生費		395		389	
7 店舗運営費		1,169		1,275	
8 租税公課		229		231	
9 減価償却費		153		142	
10 その他		4,518	14,869	4,561	14,942
工料売上原価計			32,798		32,911
商品売上原価					
商品期首たな卸高		59		51	
当期商品仕入高		1,096		1,110	
合計		1,156		1,162	
商品期末たな卸高		51		51	
商品売上原価計			1,105		1,111
不動産賃貸費用			149		151
売上原価			34,053		34,174

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金						
当期首残高	2,410	1,436	9	1,446	602	905	1,221	2,729	36	6,549	962	962	7,511
会計方針の変更による累積的影響額							74	74		74			74
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,410	1,436	9	1,446	602	905	1,296	2,804	36	6,624	962	962	7,586
当期変動額													
剰余金の配当							233	233		233			233
当期純利益							600	600		600			600
自己株式の取得									57	57			57
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											130	130	130
当期変動額合計							366	366	57	309	130	130	440
当期末残高	2,410	1,436	9	1,446	602	905	1,663	3,171	93	6,933	1,093	1,093	8,026

当事業年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金						
当期首残高	2,410	1,436	9	1,446	602	905	1,663	3,171	93	6,933	1,093	1,093	8,026
当期変動額													
剰余金の配当							233	233		233			233
圧縮記帳積立金の積立							80	80					
当期純利益							247	247		247			247
自己株式の取得									1	1			1
自己株式の処分									4	4			4
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											345	345	345
当期変動額合計						80	66	14	3	17	345	345	327
当期末残高	2,410	1,436	9	1,446	602	985	1,597	3,185	90	6,951	747	747	7,699

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 資産の評価基準及び評価方法

関係会社株式	総平均法による原価法
・ 其他有価証券	
・ 時価のあるもの	決算期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は、総平均法により算定し、評価差額は、全部純資産直入法により処理しております。)
・ 時価のないもの	総平均法による原価法
・ たな卸資産	
・ 商品、貯蔵品	先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)
・ 使用中リネン	レンタル営業に使用中の布帛類の評価額で、消耗計算は次のように行うこととしております。 イ. ホテルリネンについては3年定率 ロ. ユニフォームレンタル及びケミサプライについては一定耐用期間にわたり定額又は3年定率

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

(リース資産を除く)

建物	定額法
その他の有形固定資産	定率法(ただし、2016年4月以降に取得した借入店舗造作及び構築物は定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～50年
借入店舗造作	3年～15年
機械及び装置	13年
工具、器具及び備品	2年～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

・ 自社利用のソフトウェア	社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
・ その他	定額法によっております。
・ リース資産	
・ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産	リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金	債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。 イ. 一般債権については貸倒実績率法によっております。 ロ. 貸倒懸念債権及び破産更生債権については個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金	従業員の賞与の支給に備えて、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
株主優待引当金	将来の株主優待制度の利用に備えるため、株主優待制度の利用実績に基づき、当事業年度末における株主優待制度利用見込額を計上しております。

退職給付引当金	<p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>当事業年度末において認識すべき年金資産が、退職給付債務から未認識数理計算上の差異等を控除した額を超過する場合には、前払年金費用として投資その他の資産に計上しております。</p> <p>過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を定額法により費用処理することとしております。</p> <p>数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を定額法により翌期より費用処理することとしております。</p>
役員株式給付引当金	<p>「役員株式給付規程」に基づく当社の取締役及び執行役員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。</p>
(4) 重要なヘッジ会計の方法	
ヘッジ会計の方法	<p>特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。</p>
ヘッジ手段とヘッジ対象	<p>ヘッジ手段...金利スワップ ヘッジ対象...借入金の利息</p>
ヘッジ方針	<p>借入金の金利変動を回避する目的で金利スワップ取引を行っております。ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。</p>
ヘッジ有効性評価の方法	<p>金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。</p>
その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの	<p>稟議規程に基づき決裁され、取締役会において承認を受けております。</p>
(5) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	
退職給付に係る会計処理	<p>退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。</p>
消費税等の会計処理	<p>消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。</p>

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
建物	1,844百万円	1,776百万円
土地	1,751	1,751
投資有価証券	11	9
計	3,607	3,538

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
短期借入金	1,000百万円	700百万円
1年内返済予定の長期借入金	2,226	2,455
長期借入金	4,087	4,031
計	7,314	7,187

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
短期金銭債権	19百万円	18百万円
短期金銭債務	889	1,144
長期金銭債権	286	286

3 期末日満期手形の会計処理

期末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理しております。当期末日は金融機関の休日であったため、期末日満期手形が以下の科目に含まれております。

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
受取手形	0百万円	0百万円

4 財務制限条項

前事業年度(2017年12月31日現在)

借入金のうち、2,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

当事業年度(2018年12月31日現在)

借入金のうち、2,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

(損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度		当事業年度	
	自	2017年1月1日 至 2017年12月31日	自	2018年1月1日 至 2018年12月31日
給料手当及び賞与		478百万円		490百万円
賞与引当金繰入額		9		8
役員報酬		157		181
退職給付費用		85		56
役員株式給付引当金繰入額		26		25
株主優待引当金繰入額		27		23
減価償却費		194		179
貸倒引当金繰入額		6		3
おおよその割合				
販売費		6%		6%
一般管理費		94		94

- 2 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引高の総額。

	前事業年度		当事業年度	
	自	2017年1月1日 至 2017年12月31日	自	2018年1月1日 至 2018年12月31日
売上高		178百万円		170百万円
仕入高		2,787		2,706
営業取引以外の取引高		146		139

(有価証券関係)

子会社及び関連会社株式

前事業年度(2017年12月31日現在)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	2,500
関連会社株式	47
合計	2,547

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(2018年12月31日現在)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	2,500
関連会社株式	47
合計	2,547

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
繰延税金資産		
賞与引当金	41百万円	36百万円
株主優待引当金	6	6
退職給付引当金	1,281	1,453
長期未払金	47	44
役員株式給付引当金	17	24
貸倒引当金	31	31
環境対策引当金	0	
未払事業税	30	35
未払事業所税	15	15
減損損失	165	321
資産除去債務	67	71
投資有価証券評価損	18	18
その他	76	68
小計	1,801	2,127
評価性引当額	119	268
繰延税金資産合計	1,681	1,858
繰延税金負債		
圧縮記帳積立金	399	435
その他有価証券評価差額金	473	327
退職給付信託設定益	192	192
前払年金費用		116
その他	15	19
繰延税金負債合計	1,082	1,091
繰延税金資産の純額	599	767

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は貸借対照表の以下の項目に含まれておりません。

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
流動資産 - 繰延税金資産	140百万円	142百万円
固定資産 - 繰延税金資産	458	624

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 2017年12月31日	当事業年度 2018年12月31日
法定実効税率	30.86%	30.86%
(調整)		
住民税均等割	14.82	15.49
受取配当金の益金不算入	5.62	5.82
交際費の損金不算入	2.43	2.49
法定実効税率と税効果会計適用税率との差異	0.23	0.19
評価性引当額の増減	23.56	21.66
その他	0.61	0.78
税効果会計適用後の法人税等の負担率	18.55	64.09

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)
有形固定資産	建物	4,171	150	47 (43)	275	3,998	8,504
	借入店舗造作	295	95	22 (11)	60	308	1,778
	構築物	184	22	0	26	180	906
	機械及び装置	736	308	1 (1)	135	907	3,364
	車両運搬具	24	17	0	17	24	235
	工具、器具及び備品	123	67	3 (2)	57	129	1,362
	土地	5,234	209	485 (484)		4,958	
	リース資産	910	251	22 (17)	226	913	1,349
	建設仮勘定	17	1,015	848		183	
		計	11,698	2,137	1,433 (559)	799	11,603
無形固定資産	電話加入権	44				44	
	ソフトウェア	385	172		137	419	1,211
	その他	0	8		0	9	268
		計	429	181		137	473
投資その他の資産	長期前払費用	42	30	3 (1)	29	38	145
		計	42	30	3 (1)	29	38

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	リネンサプライ相模事業所	連続洗濯機	76百万円
機械及び装置	リネンサプライ相模事業所	連続洗濯機	90百万円
土地	リネンサプライ相模事業所	隣地(1305.58㎡)	209百万円

2 長期前払費用はチェーン店に支給する看板等であり、定額法による償却を行っております。

3 当期減少額欄のうち()内は内書で減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	103	9	9	103
賞与引当金	132	119	132	119
株主優待引当金	22	20	22	20
退職給付引当金	3,152	782	222	3,712
役員株式給付引当金	58	25	4	79
環境対策引当金	1		1	

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL http://www.hakuyosha.co.jp/
株主に対する特典	株主優待は年2回、12月末現在又は6月末現在の株主に、下記より一つ選択してもらう。 1 クリーニング優待券 100株以上..... 無料券1枚、3割引券1枚を贈呈。 200株ごとに無料券1枚、100株ごとに3割引券1枚を贈呈。 30,000株超過分...500株ごとに無料券1枚、100株ごとに3割引券1枚を贈呈。 有効期間 各年度の決算期交付分 5月1日～10月31日 各年度の間決算期交付分 11月1日～4月30日 2 QUOカード(「Kids Smile」QUOカード) 100株以上1,000株未満.....500円 1,000株以上5,000株未満.....1,000円 5,000株以上..... 2,000円 3 緑の募金への寄付 100株以上1,000株未満.....500円 1,000株以上5,000株未満.....1,000円 5,000株以上..... 2,000円

注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書

事業年度 第125期(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)2018年3月26日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

第125期(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)2018年3月26日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第126期第1四半期(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)2018年5月14日関東財務局長に提出。

第126期第2四半期(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)2018年8月10日関東財務局長に提出。

第126期第3四半期(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)2018年11月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書 2018年3月27日関東財務局長に提出。

(5) 臨時報告書の訂正報告書

訂正報告書(上記(4)臨時報告書の訂正報告書)2018年4月3日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年3月25日

株式会社 白 洋 舎
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 會 田 将 之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 江 村 羊 奈 子

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社白洋舎の2018年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社白洋舎が2018年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年3月25日

株式会社 白 洋 舎
取締役会 御 中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 會 田 将 之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 江 村 羊 奈 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の2018年1月1日から2018年12月31日までの第126期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社白洋舎の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。